



2025年度第2四半期 決算説明資料

2025年11月5日

旭化成株式会社

業績に関する補足の詳細データは、
「Financial Factbook」として当社WEBサイトに掲載しています
https://www.asahi-kasei.com/jp/ir/library/financial_briefing/

AsahiKASEI

Creating for Tomorrow

2025年度 上期実績	
営業利益 (のれん償却前営業利益)	親会社株主に帰属する 中間純利益
1,075 億円 前年同期比 ▲1.3%	663 億円 前年同期比 +10.0%
(1,238 億円 ▲0.7%)	

2025年度 通期予想	
営業利益 (のれん償却前営業利益)	親会社株主に帰属する 当期純利益
2,210 億円 前期比 +4.3%	1,400 億円 前期比 +3.7%
(2,530 億円 +3.5%)	

2025年度 上期実績
- 営業利益は、前年同期比でほぼ横ばい。医薬事業の利益成長が寄与した「ヘルスケア」、国内住宅事業が堅調に推移した「住宅」は増益となったが、エッセンシャルケミカル事業の在庫受払差や定期修理の影響等を受けた「マテリアル」は減益 - 中間純利益は、前年同期比で増益。「マテリアル」におけるMMA等の事業撤退に伴う損失等により特別損益が悪化したが、営業外損益の改善や税金費用の低減があった

2025年度 通期予想
- 営業利益は、前期比増益、当初予想（5月発表）を上方修正。2期連続で最高益更新を目指す。特に、成長投資の効果等により、「重点成長」事業である医薬事業、エレクトロニクス事業が当初予想を上回る見通し - 当期純利益は、前期比増益。事業撤退に伴う損失等により特別損益が悪化するが、持分法投資損益の改善を見込む。また、政策保有株式の売却等により当初予想を上方修正

株主還元

- 2025年度の中間配当は20円とし、年間配当は40円を予想（前期比で2円増配、当初予想から変更なし）
- 企業価値向上に向けた施策として、**400億円を上限に自己株式取得の実施を決定**

米国関税政策等の主な影響・リスクと対応策のアップデート

- 各事業の米国拠点における調達コスト上昇の影響については、現時点では軽微と想定。関税影響前に備蓄した在庫の活用、製品への価格転嫁、調達先の変更等、影響の抑制に努める（2025年7月発表時点から変更なし）
- 世界経済の停滞や、サプライヤーによる関税分の価格転嫁等に伴う各事業の需要減少リスクについては、2025年度上期時点では顕著な影響は見られていない。下期以降の需要への影響については、今後の市場動向を注視していく

セグメント	下期以降における主な影響・リスクと対応策
ヘルスケア	- ライフサイエンス事業の米国拠点にて、一部の製品・部材等を米国外から調達しているが、価格転嫁等により影響の抑制に努める - クリティカルケア事業の米国拠点にて、一部の部材を米国外から調達しているが、部材の備蓄在庫の活用や製品への価格転嫁等により影響の抑制に努める
住宅	- 北米事業において、米国拠点では一部資材を米国外から調達しているが、価格転嫁等により影響の抑制に努める（関税率が想定を下回り、前回予想時よりも調達コスト上昇は軽減する見込み） - 国内外ともに、世界景気の停滞やサプライヤーが関税分を価格転嫁すること等を背景とした、消費者の購買意欲の低下によるリスクが想定される
マテリアル	- カーインテリア事業の米国拠点にて、一部資材を米国外から調達しているが、価格転嫁等により影響の抑制に努める - 世界の景気停滞やサプライヤーが関税分を価格転嫁すること等を背景とした、自動車市場関連等の各事業の需要減少、石化市況の低下リスクが想定される

事業ポートフォリオ変革の進捗状況（１）

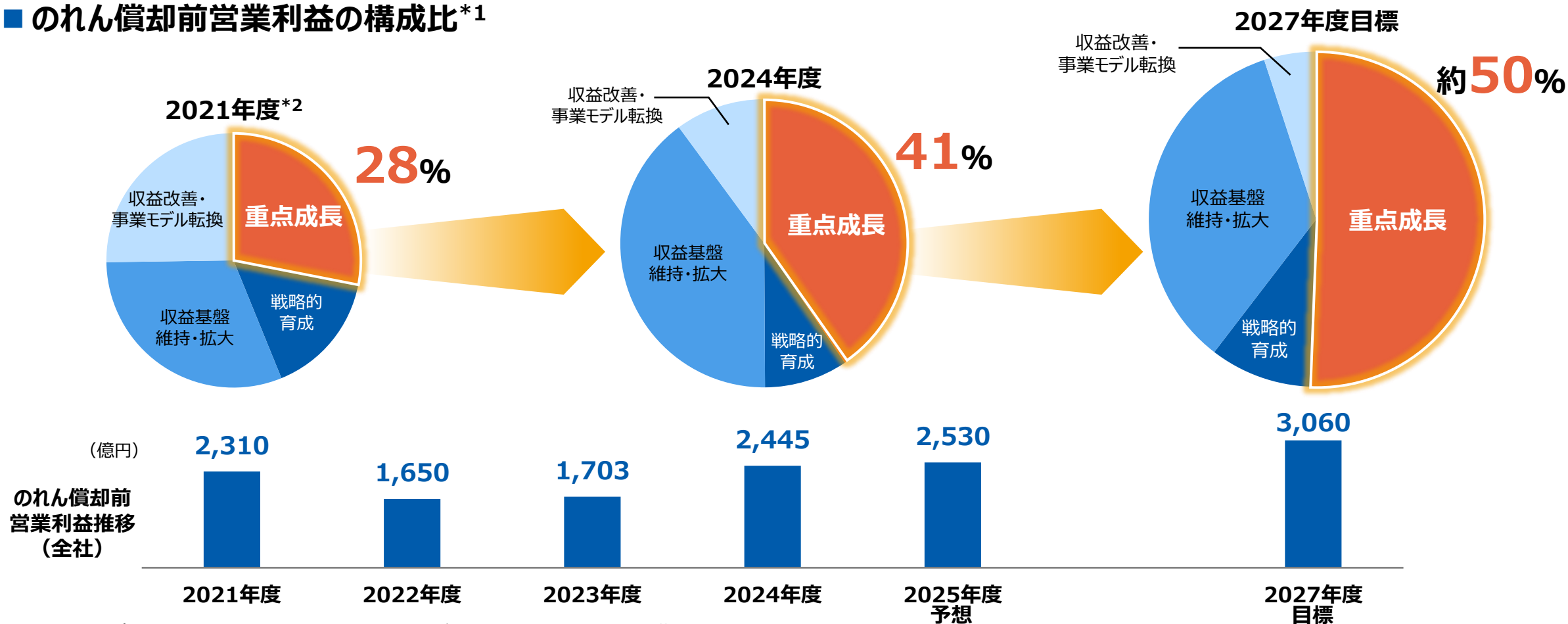
前中期経営計画から「成長投資」と「構造転換」の両輪による事業ポートフォリオ変革を推進

	(年度) 2022	2023	2024	2025
		前中期経営計画2024 ~Be a Trailblazer~		現中計2027 ~Trailblaze Together~
成長投資	 ライフサイエンス Bionova（バイオCDMO事業）買収		 医薬 Calliditas買収	 ライフサイエンス プラノバの新紡糸工場建設
	 エレクトロニクス パイメル（半導体保護膜／層間絶縁膜）の能力増強	 海外住宅 Focus（ネバダ州）買収	 海外住宅 ODC（フロリダ州）買収	 エレクトロニクス パイメルの能力増強
構造転換		 エネルギー&インフラ LIB用湿式セパレータの米国・日本での塗工設備増強	 エネルギー&インフラ LIB用湿式セパレータの北米における一貫工場の建設	 エネルギー&インフラ クリーン水素製造用アルカリ水電解システムの生産能力拡大
		 ライフサイエンス セパセル事業の構造転換	 医薬 診断薬事業の譲渡	
構造転換		 建材 ALC岩国工場閉鎖	 ライフサイエンス 血液浄化事業の譲渡	
	 エレクトロニクス ペリクル事業の譲渡	 コンフォートライフ ・スパンボンド共同事業会社設立 ・旭化成パックスの事業譲渡	 エッセンシャルケミカル PTT Asahi Chemicalにおけるアクリロニトリル等の事業撤退	 エッセンシャルケミカル MMA等の事業撤退

事業ポートフォリオ変革の進捗状況（２）

- 前中計期間（2022～2024年度）では、医薬事業、クリティカルケア事業、エレクトロニクス事業等が成長軌道に回帰したことにより、「重点成長」事業の利益構成比が拡大
- 現中計期間（2025～2027年度）では、これまでの投資の成果を結実させ、「重点成長」事業を中心に利益成長を更に加速させる

■ のれん償却前営業利益の構成比*1



*1 記載しているパーセンテージは、マテリアル共通、その他、全社又は消去の数字を除いたのれん償却前営業利益に対する構成比

*2 2021年度の実績については、参考情報として現在の開示区分に簡便的に組み替えて表示している

2025年度以降の各事業の開示区分と位置付け

- 2025年度より、各セグメント内のサブセグメントを再編（詳細は参考資料を参照）
- 「重点成長」・「戦略的育成」事業への投資継続、利益成長の実現と並行して「収益改善・事業モデル転換」事業の改革を進める

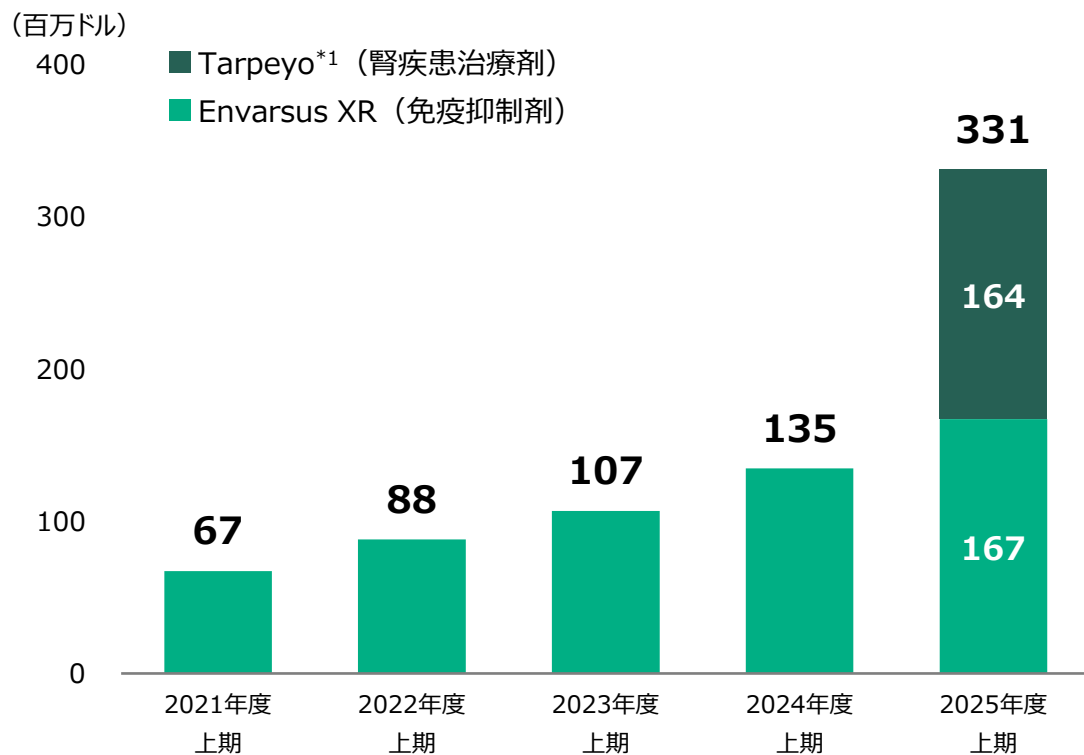
	ヘルスケア	住宅	マテリアル
 重点成長 - 過去投資からの利益創出 - 非連続成長も含めた積極投資	 医薬  クリティカルケア	 海外住宅	 エレクトロニクス
 戦略的育成 - 将来の成長ドライバー - 競争力強化の観点での提携戦略推進	 ライフサイエンス	 不動産開発	 エナジー&インフラ
 収益基盤維持・拡大 - 安定収益創出 - 拡大機会は資本効率を強く意識した上で判断		 建築請負、リフォーム 賃貸管理・不動産流通	 カーインテリア
		 建材	 コンフォートライフ
 収益改善・事業モデル転換 - 収益/資本効率が低迷する事業の構造転換 - 無形資産を活用した新しい事業モデルへのシフト			 パフォーマンスケミカル  エッセンシャルケミカル

「重点成長」事業の状況（１）



医薬

Envarsus XRとTarpeyoの米国売上高推移

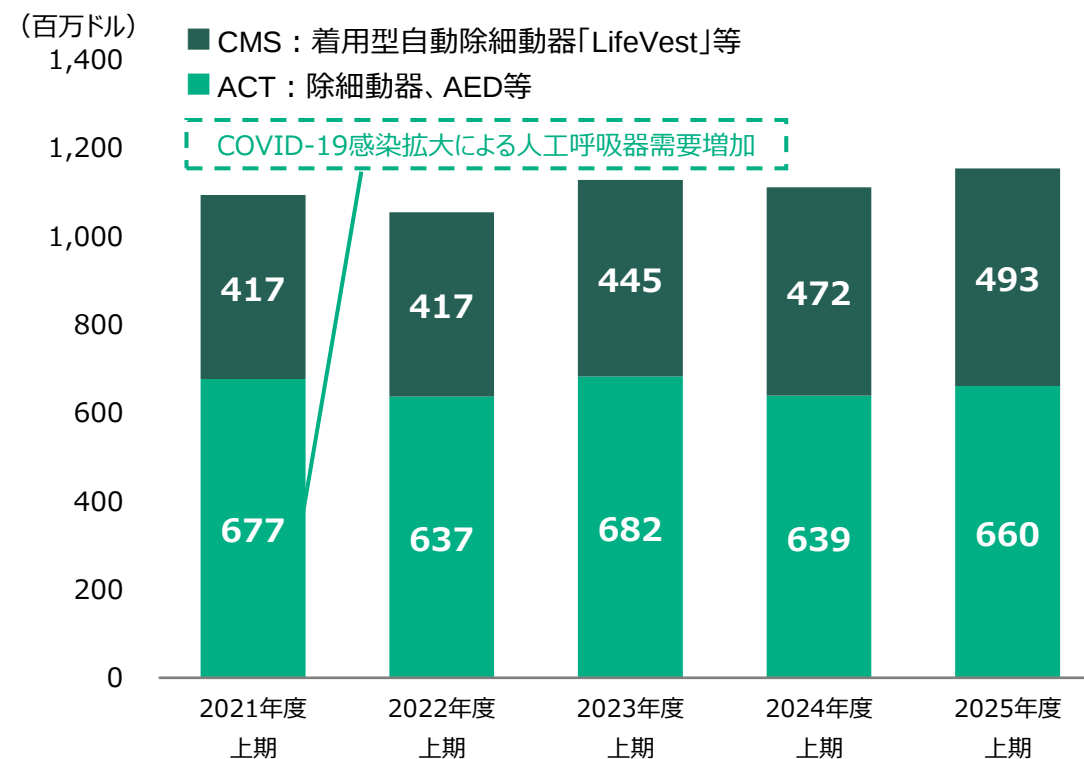


- IgA腎症の治療薬としてTarpeyoの腎臓医への認知度が向上し、売上高が大きく成長（2024年度下期より連結）
- 2025年度版の腎臓病に関する国際的な診療ガイドライン*2において、IgA腎症治療薬としてNefecon (Tarpeyo)が唯一推奨されている



クリティカルケア

ACTとCMSの売上高推移*3



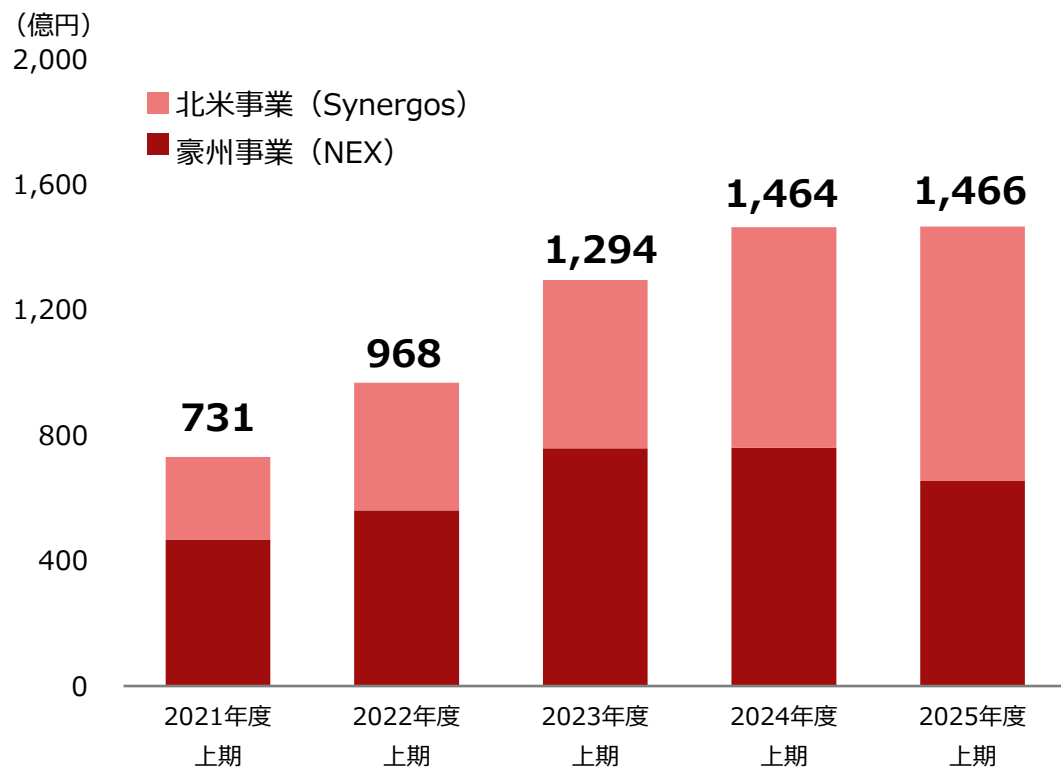
- CMSはLifeVestの売上が堅調に推移。ACTは除細動器の新製品上市遅れがあったが、Vyaireの人工呼吸器事業連結の効果があった
- 2025年9月に競争力を強化した除細動器の新製品上市により、下期以降の売上成長を見込む

*1 新規連結に伴い、2024年10月より当社で売上を計上 *2 KDIGO 2025 Clinical Practice Guideline for the Management of IgA Nephropathy (IgAN) and Immunoglobulin A Vasculitis (IgAV)

*3 2023年度以前の実績については、参考情報として現在の事業区分に簡便的に組み替えて表示している

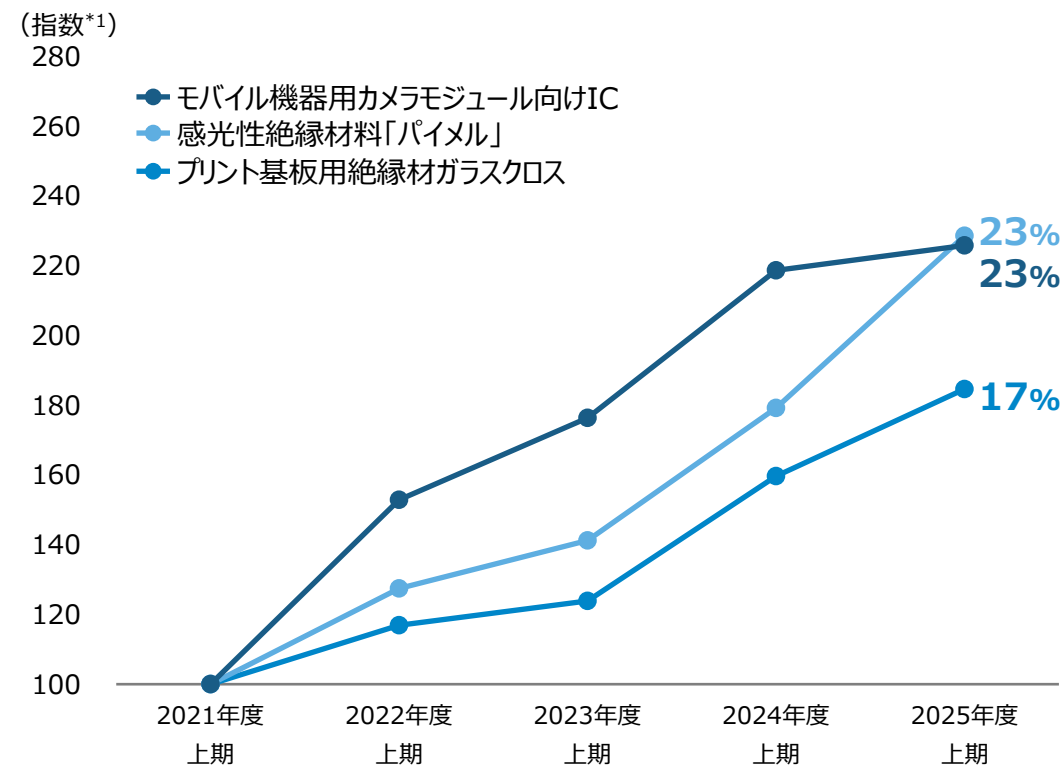
「重点成長」事業の状況（2）

海外住宅 北米事業と豪州事業の売上高推移



- 足元では、北米事業におけるODCの新規連結の効果があったが、北米・豪州ともに、住宅需要の減少に伴い数量減少
- 中長期的には、北米・豪州ともに旺盛な需要を背景として着実な市場成長を見込む

エレクトロニクス 主力製品の売上高CAGR（2021年度上期→2025年度上期）



- パイメルやガラスクロス等、主にAI用途向けの関連製品を中心に、2025年度上期も販売が堅調に推移
- 先端半導体パッケージ技術への需要の高まりを背景に中長期的な成長を見込み、新製品の開発や積極的な投資を進めていく

*1 2021年度上期の各製品の売上高を100とした増加率を表示

事業ポートフォリオ変革の加速や収益力向上等により、持続的な企業価値向上を目指す

企業価値向上に向けた施策

事業ポートフォリオ変革加速

- 「ヘルスケア」等の「重点成長」事業への投資の刈り取りを着実に実行するとともに、「マテリアル」においてROICがWACCを継続的に下回る低資本効率の事業の構造転換を加速

収益力向上

- 全社横断コスト削減活動に加え、適切な値上げや汎用品削減などによる収益改善を徹底

投資マネジメント強化

- 成長投資において、ハードルレート等の運用を強化して投資判断を高度化。投資後のモニタリングやフォローも徹底

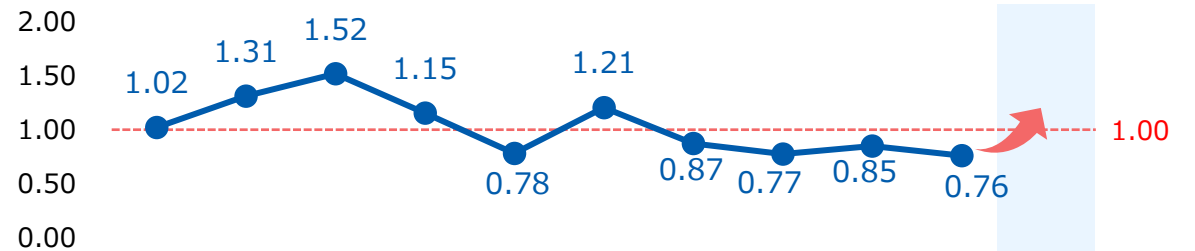
資本構成の最適化

- 資本水準適正化の視点での株主還元強化や、継続的な政策保有株式の縮減（過去5年で保有銘柄数を約70%、1,500億円超縮減）

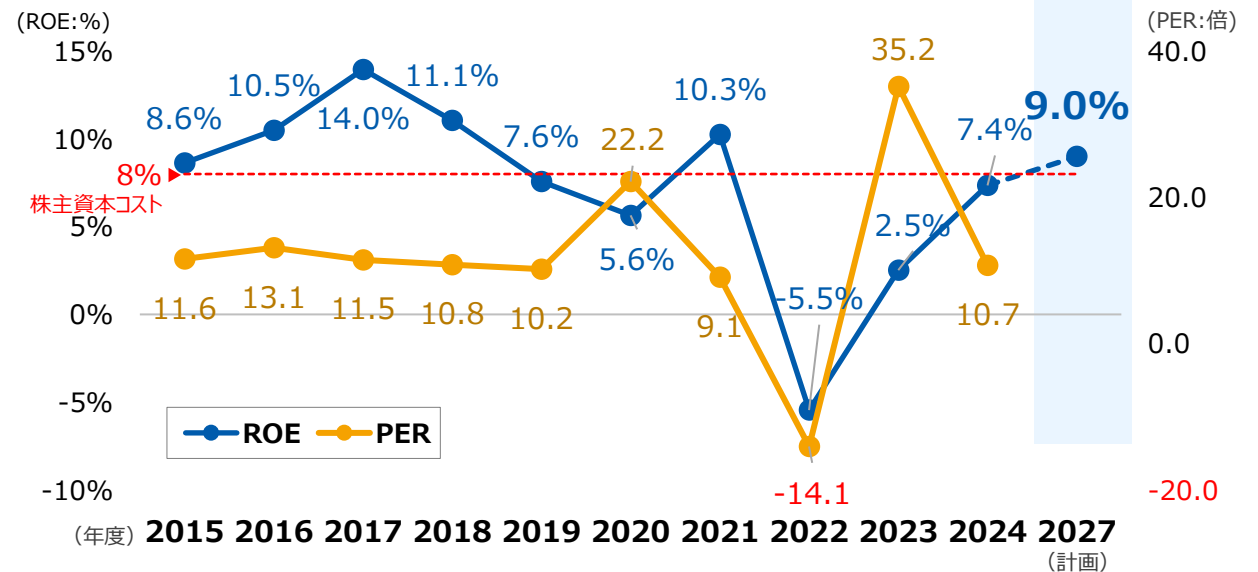
資本コスト低減

- M&Aや大型投資の戦略や経営基盤強化の取り組みなどの開示、投資家との対話を継続的に拡充

PBR（株価純資産倍率）*1



ROE・PER（株価収益率）*1



*1 PBR、PERにおける株価は各年度末の終値を前提としている

1. 2025年度上期実績

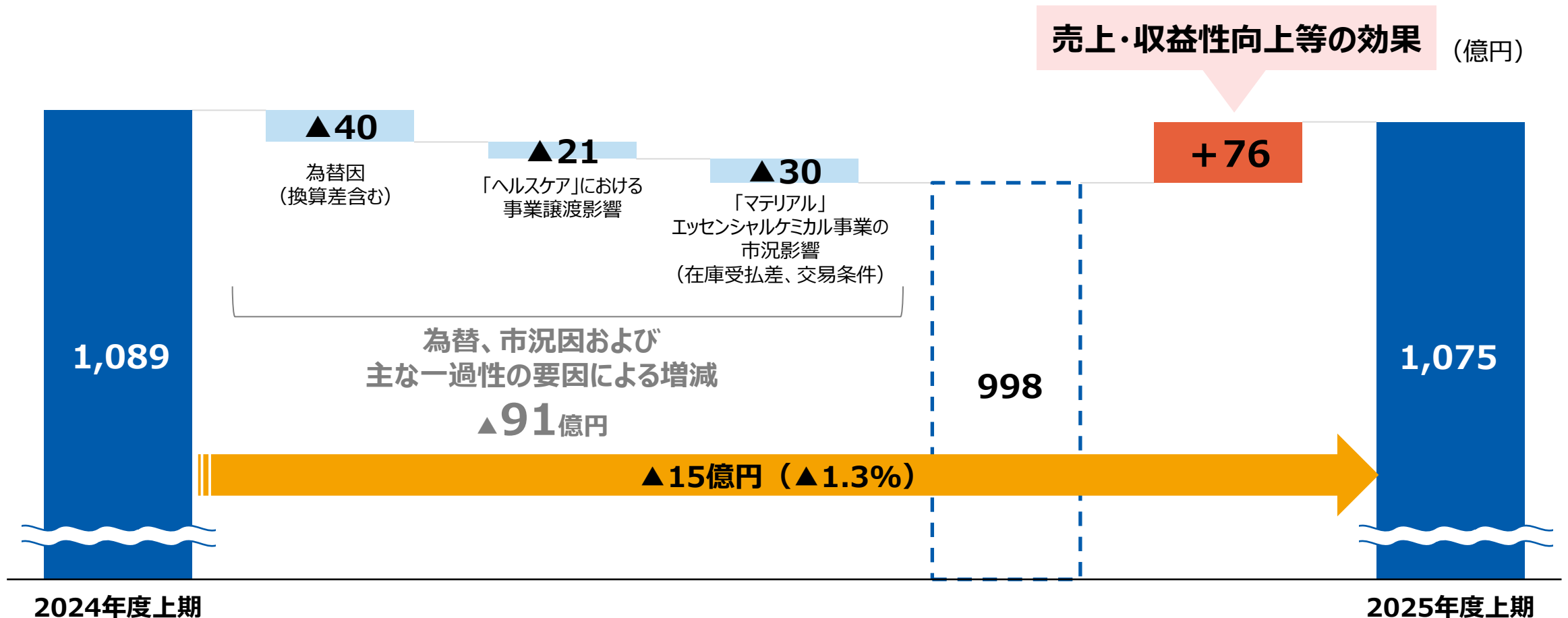
2025年度上期実績（連結）

- 売上高は1兆4,864億円、前年同期比で40億円（▲0.3%）の減収。前回予想（2025年7月発表）から下振れ
- 営業利益は1,075億円、前年同期比で15億円（▲1.3%）の減益。前回予想から上振れ
- 親会社株主に帰属する中間純利益は663億円、前年同期比で60億円（+10.0%）の増益。前回予想から上振れ

		2024年度上期	2025年度上期	前年同期比		2025年度上期 前回予想 (2025年7月発表)	前回予想比 増減率
				増減額	増減率		
売上高	(億円)	14,903	14,864	-40	-0.3%	15,040	-1.2%
営業利益	(億円)	1,089	1,075	-15	-1.3%	1,050	+2.3%
売上高営業利益率		7.3%	7.2%	-0.1%		7.0%	
のれん償却前営業利益	(億円)	1,246	1,238	-9	-0.7%	1,210	+2.3%
EBITDA ^{*1}	(億円)	1,975	2,029	54	+2.8%	2,020	+0.5%
売上高EBITDA率		13.3%	13.7%	+0.4%		13.4%	
親会社株主に帰属する中間純利益	(億円)	602	663	60	+10.0%	610	+8.6%
EPS	(円)	43.46	48.79	5.33	+12.3%	44.92	+8.6%
のれん償却前EPS	(円)	54.80	60.81	6.01	+11.0%	56.70	+7.3%
為替・ナフサ前提							
平均為替レート（USドル）		153円	146円			145円	
平均為替レート（ユーロ）		166円	168円			167円	
国産ナフサ価格		78,000円／kl	64,800円／kl			64,700円／kl	
1株当たり配当金		18円	20円			20円	

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費（有形、無形、のれん）

- 為替、市況因等の前提変化および一過性のマイナス影響を除く実力ベースでは、前年同期比で76億円の増益
- 特に「重点成長」事業である医薬事業において、2024年10月に連結したCalliditasの業績貢献もあり大幅に利益が伸長



2025年度上期実績（セグメント別：前年同期比）

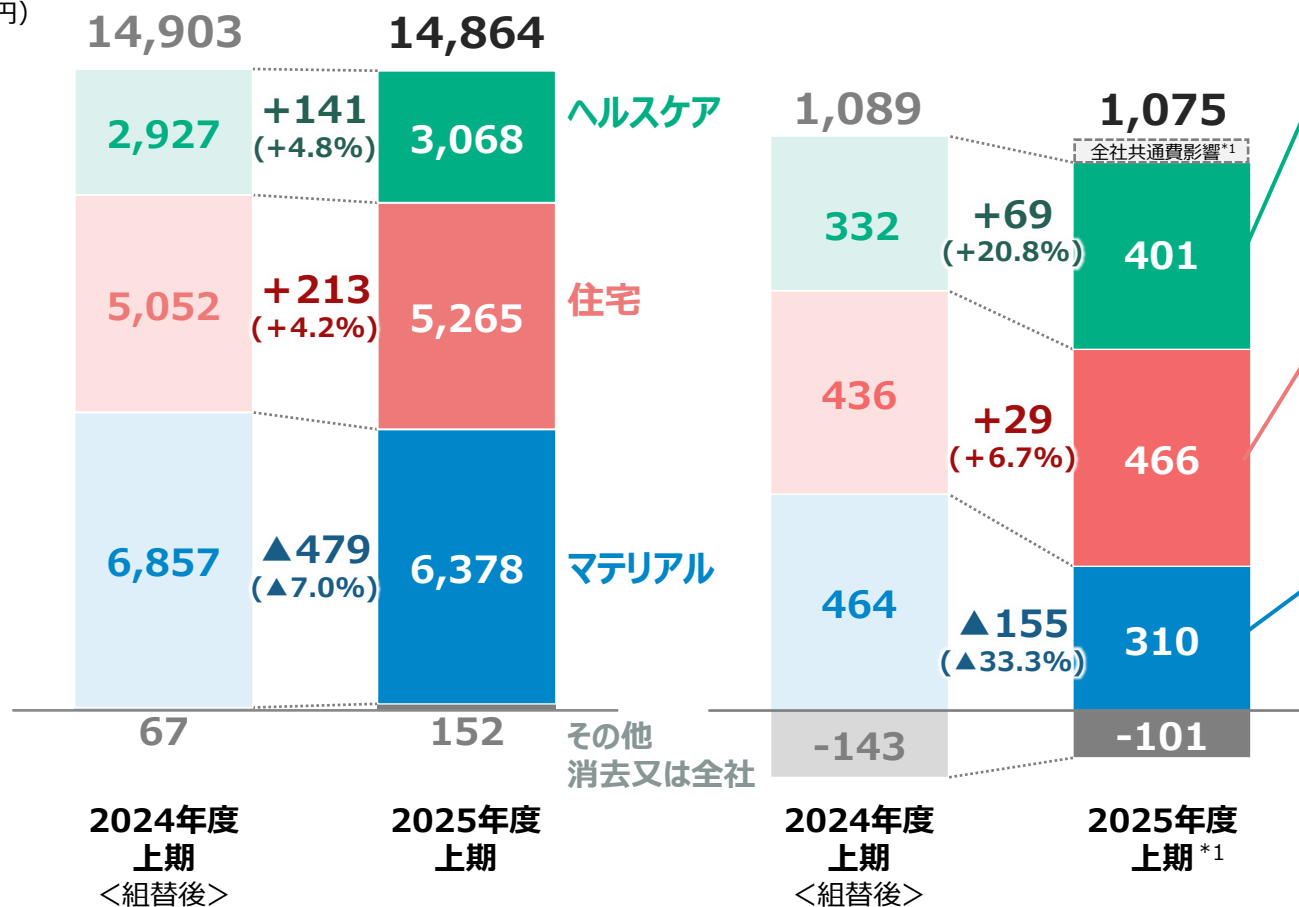
売上高 前年同期比

▲40億円（▲0.3%）

営業利益 前年同期比

▲15億円（▲1.3%）

（億円）



■ 営業利益の主な増減要因

ヘルスケア

+69億円

医薬・ライフサイエンス事業における主力製品の販売量増加やCalliditasの新規連結の効果が、クリティカルケア事業における除細動器の販売量の減少影響を上回り、増益

医薬・ライフサイエンス事業

+143億円

クリティカルケア事業

▲74億円

住宅

+29億円

建築請負事業の大型化・高付加価値化による平均単価上昇等により、増益

住宅事業

+19億円

建材事業

+10億円

マテリアル

▲155億円

各事業での円高影響や固定費増加に加え、エッセンシャルケミカル事業の在庫受払差や定期修理によるマイナス影響等により、減益

エレクトロニクス事業

+3億円

カーインテリア事業

▲15億円

エナジー&インフラ事業

▲13億円

コンフォートライフ事業

▲27億円

パフォーマンスケミカル事業

▲27億円

エッセンシャルケミカル事業

▲99億円

マテリアル共通

+24億円

*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は38ページ参照

2025年度上期実績（セグメント別：前回（7月発表）予想比） AsahiKASEI

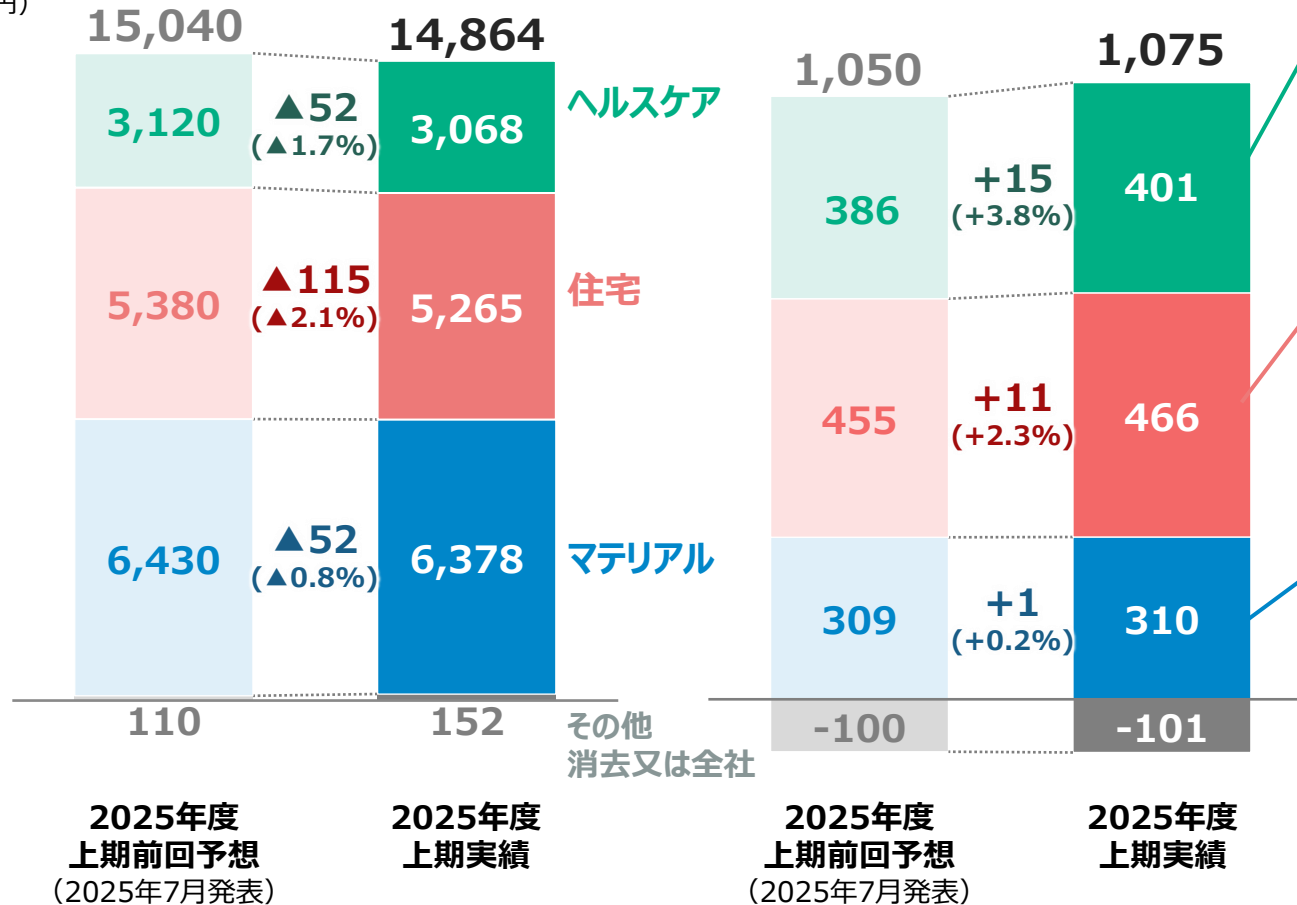
売上高 前回予想比

▲176億円（▲1.2%）

営業利益 前回予想比

+25億円（+2.3%）

（億円）



■ 営業利益の主な増減要因

ヘルスケア

+15億円

医薬・ライフサイエンス事業における主力製品の販売量増加や販管費の減少の効果が、クリティカルケア事業における除細動器の販売量の下振れ影響を上回り、上振れ

医薬・ライフサイエンス事業

+69億円

クリティカルケア事業

▲54億円

住宅

+11億円

建築請負事業を中心に固定費を削減し、上振れ

住宅事業

+10億円

建材事業

+0億円

マテリアル

+1億円

エナジー & インフラ事業は下振れたが、他事業が堅調に推移し、ほぼ想定通りの着地

エレクトロニクス事業

+11億円

カーインテリア事業

▲1億円

エナジー & インフラ事業

▲15億円

コンフォートライフ事業

+8億円

パフォーマンスケミカル事業

+26億円

エッセンシャルケミカル事業

+3億円

マテリアル共通

▲31億円

営業外・特別損益、法人税等

- | 営業外損益は、支払利息増加等による金融収支悪化の一方、為替差損益の改善により、損失が縮小
- | 特別損益は、政策保有株式や「ヘルスケア」の事業譲渡に伴う売却益計上の一方、「マテリアル」におけるMMA等の事業撤退に伴う損失等により悪化
- | 法人税等は、「ヘルスケア」の事業譲渡に伴う税金費用の軽減があり、減少

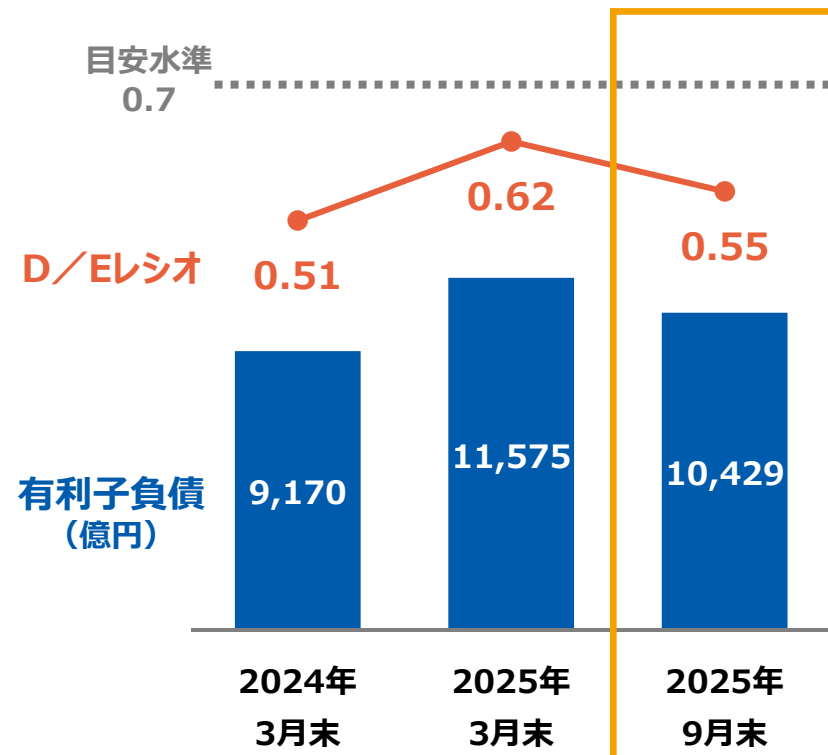
	(億円)		
	2024年度上期	2025年度上期	増減額
営業外損益	-52	-14	38
投資有価証券売却益	73	232	160
固定資産売却益	2	3	1
受取保険金	12	-	-12
受取和解金	-	44	44
関係会社株式売却益	-	77	77
特別利益	87	356	269
投資有価証券評価損	7	4	-3
固定資産処分損	35	29	-6
減損損失	11	12	1
製品補償損失	18	-	-18
電力契約解約に伴う損失	-	44	44
事業構造改善費用	83	362	280
特別損失	153	451	298
特別損益	-66	-94	-29
法人税等	347	273	-74

連結貸借対照表

- 「住宅」における棚卸資産の増加に加え、円安に伴いCalliditasを中心に海外子会社の資産が増加した一方、「ヘルスケア」における事業譲渡の影響等により、総資産が181億円減少
- 有利子負債の減少に加え、中間純利益の計上等に伴い自己資本が増加したことにより、D／Eレシオは前年度末から低下

	2025/9月末	2025/3末比 増減額		2025/9月末	2025/3末比 増減額
流動資産	17,963	268	負債	20,223	-789
現金及び預金	3,775	-159	仕入債務	1,869	-67
売上債権	4,777	-137	有利子負債*1	10,429	-1,145
棚卸資産	7,666	473	その他	7,925	423
その他	1,744	92	純資産	19,748	608
固定資産	22,008	-449	自己資本	18,993	399
有形固定資産	9,122	-84	株主資本	14,053	385
のれん	3,743	-153	その他の包括利益累計額	4,941	14
その他の無形固定資産	5,255	-154	非支配株主持分	754	209
投資有価証券	1,613	-71			
その他	2,275	13			
資産合計	39,971	-181	負債純資産合計	39,971	-181

有利子負債、D／Eレシオ



*1 リース債務除く

キャッシュ・フローの状況

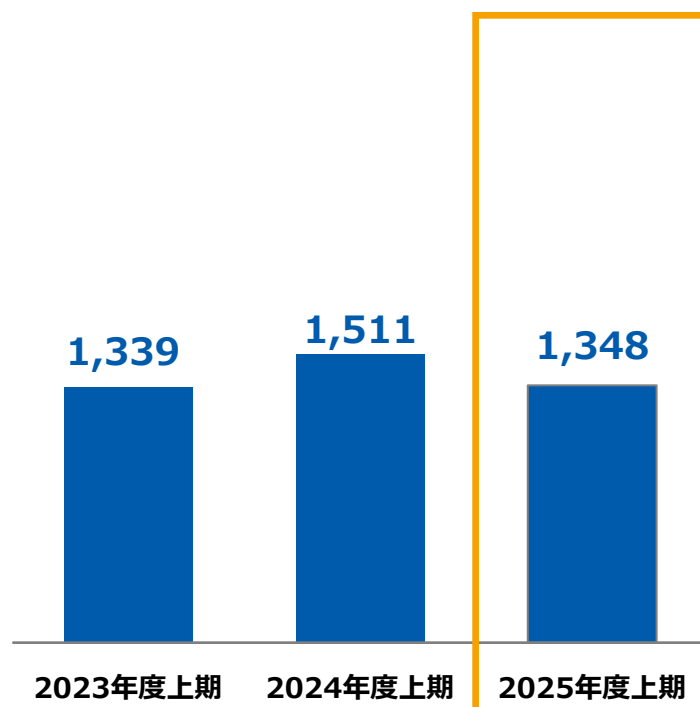
営業CF

法人税の支払額が増加したことに加え、「住宅」の不動産開発事業における棚卸資産増加等に伴う運転資本の増加により、キャッシュ・インが減少

投資CF

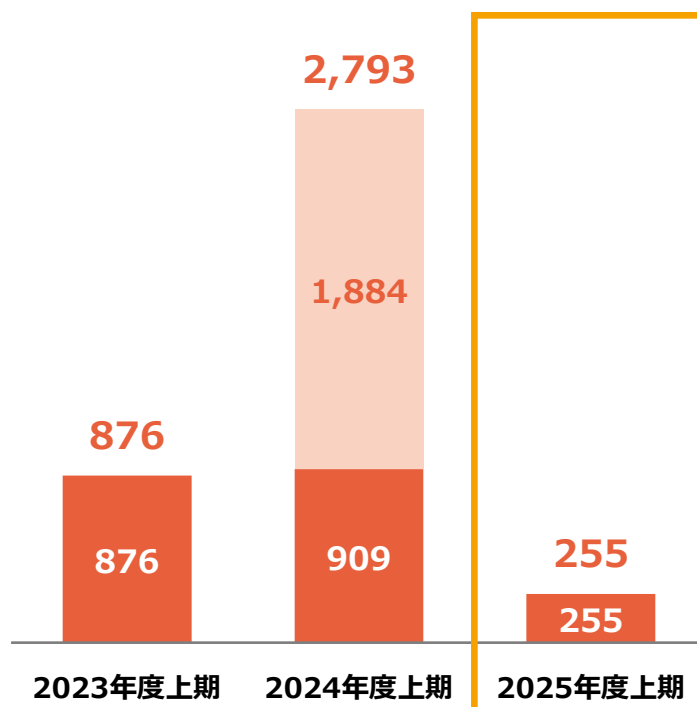
Calliditas、ODC買収があった前年同期からはM&A関連による支出が減少したことに加え、「ヘルスケア」の事業譲渡に伴う子会社株式売却収入を計上したことなどにより、キャッシュ・アウトが大幅に減少

■ 営業CF（キャッシュ・イン）

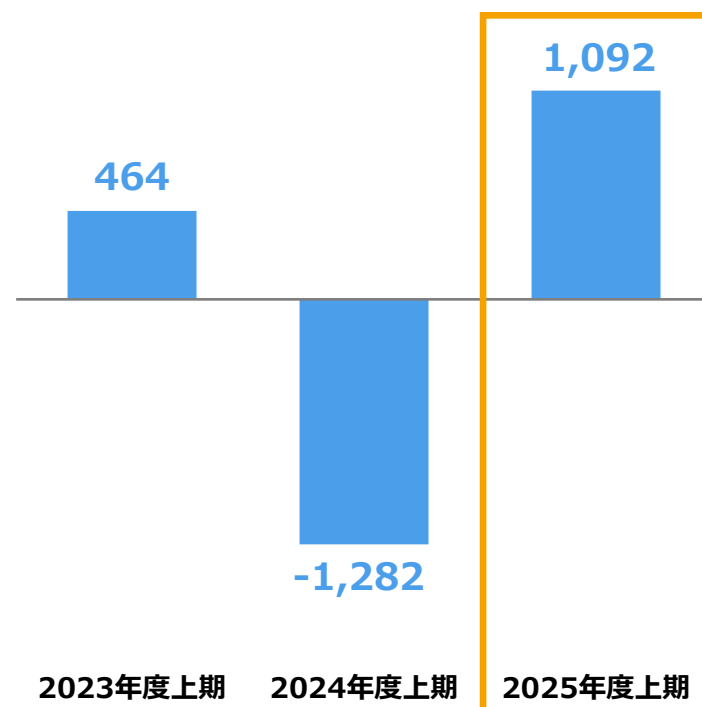


■ 投資CF（キャッシュ・アウト）

- M&A関連による支出
- 設備投資による支出、その他投資CF



■ FCF（キャッシュ・イン）（億円）



2. 2025年度通期予想

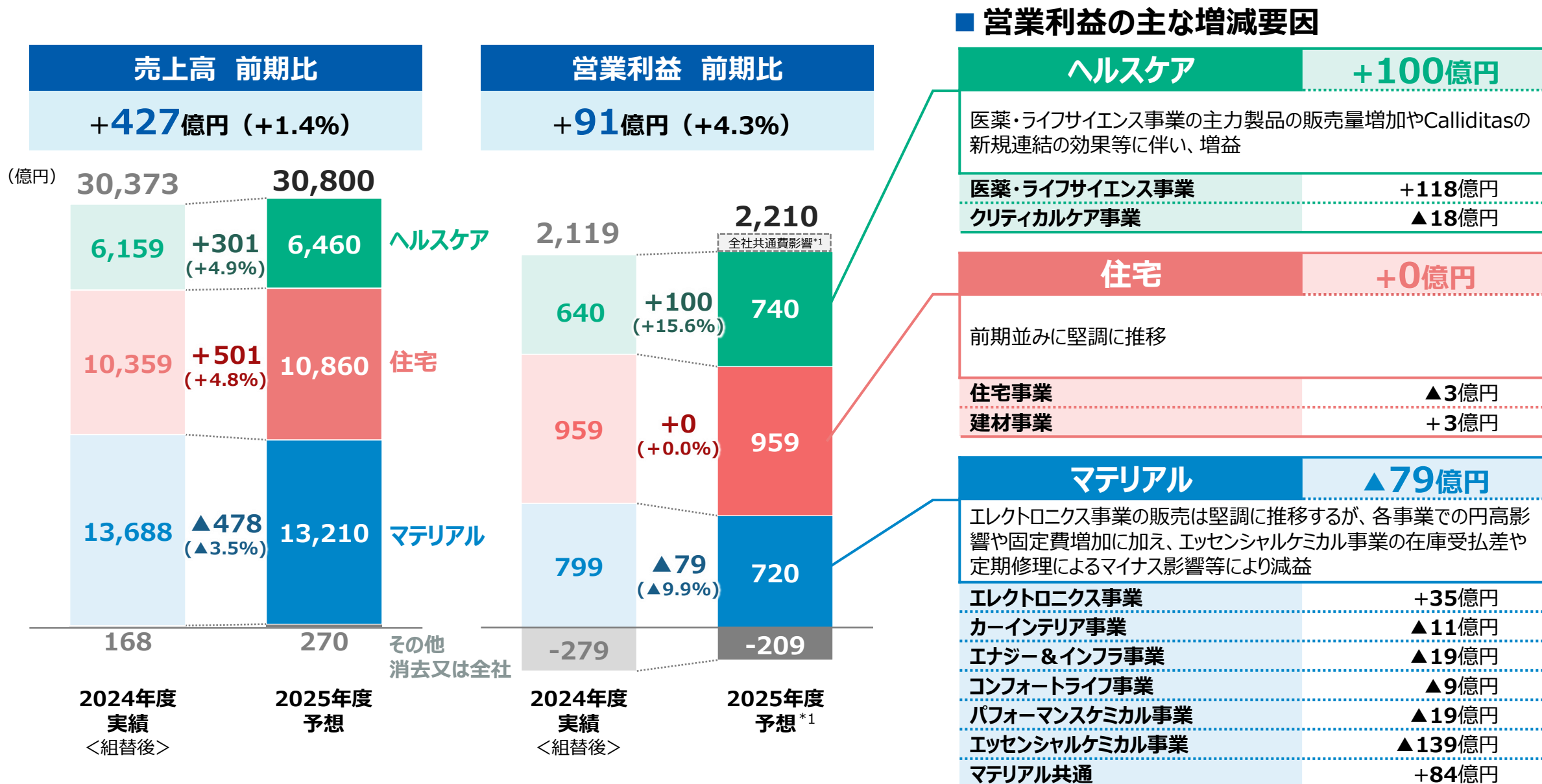
2025年度通期予想（連結）

- 売上高は3兆800億円、前期比で427億円（+1.4%）の増収。当初予想（2025年5月発表）から下方修正
- 営業利益は2,210億円、前期比で91億円（+4.3%）の増益。当初予想から上方修正
- 親会社株主に帰属する当期純利益は1,400億円、前期比で50億円（+3.7%）の増益。当初予想から上方修正

		2024年度			2025年度		2025年度 予想	前期比		2025年度 当初予想 (2025年5月発表)	増減率
		上期	下期		上期	下期予想		増減額	増減率		
売上高	(億円)	14,903	15,470	30,373	14,864	15,936	30,800	427	+1.4%	31,170	-1.2%
営業利益	(億円)	1,089	1,030	2,119	1,075	1,135	2,210	91	+4.3%	2,150	+2.8%
売上高営業利益率		7.3%	6.7%	7.0%	7.2%	7.1%	7.2%	+0.2%		6.9%	
のれん償却前営業利益	(億円)	1,246	1,199	2,445	1,238	1,292	2,530	85	+3.5%	2,470	+2.4%
EBITDA ^{*1}	(億円)	1,975	2,005	3,980	2,029	2,101	4,130	150	+3.8%	4,130	±0.0%
売上高EBITDA率		13.3%	13.0%	13.1%	13.7%	13.2%	13.4%	+0.3%		13.2%	
親会社株主に帰属する当期純利益	(億円)	602	747	1,350	663	737	1,400	50	+3.7%	1,250	+12.0%
EPS	(円)	43.46	54.48	97.94	48.79	54.36	103.15	5.21	+5.3%	90.69	+13.7%
のれん償却前EPS	(円)	54.80	66.81	121.61	60.81	65.92	126.73	5.12	+4.2%	113.90	+11.3%
為替・ナフサ前提											
平均為替レート（USD/円）		153円	153円	153円	146円	145円	146円			140円	
平均為替レート（ユーロ/円）		166円	162円	164円	168円	165円	167円			160円	
国産ナフサ価格		78,000円/kl	73,300円/kl	75,700円/kl	64,800円/kl	63,000円/kl	63,900円/kl			55,000円/kl	
1株当たり配当金		18円	20円	38円	20円	20円	40円			40円	

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費（有形、無形、のれん）

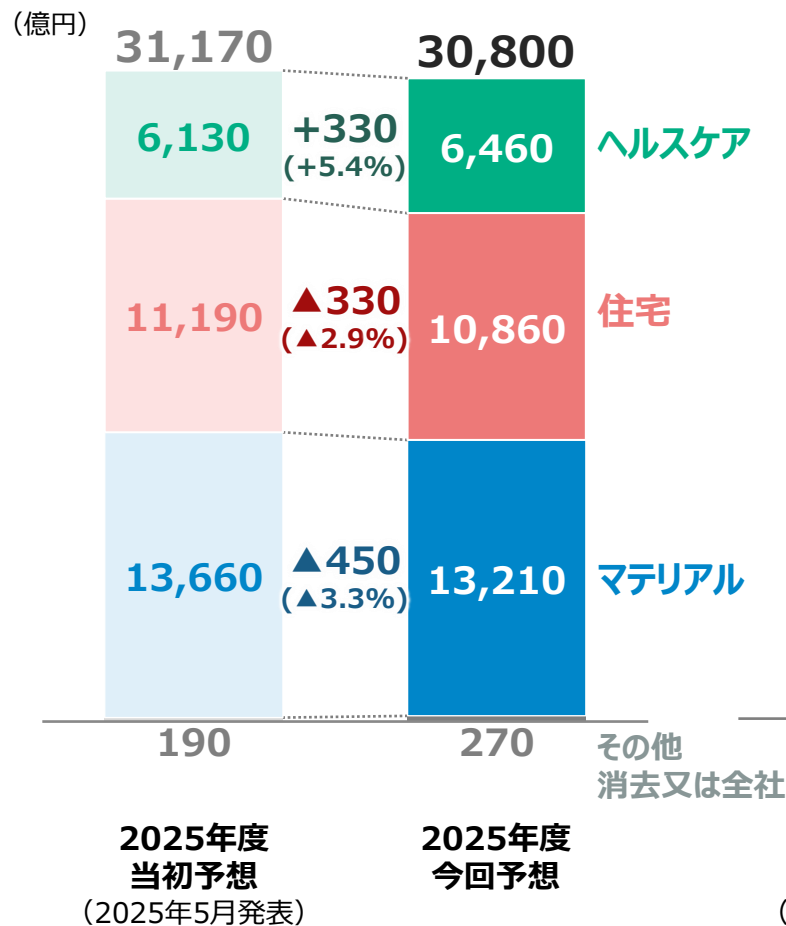
2025年度通期予想（セグメント別：前期比）



2025年度通期予想（セグメント別：当初（5月発表）予想比） AsahiKASEI

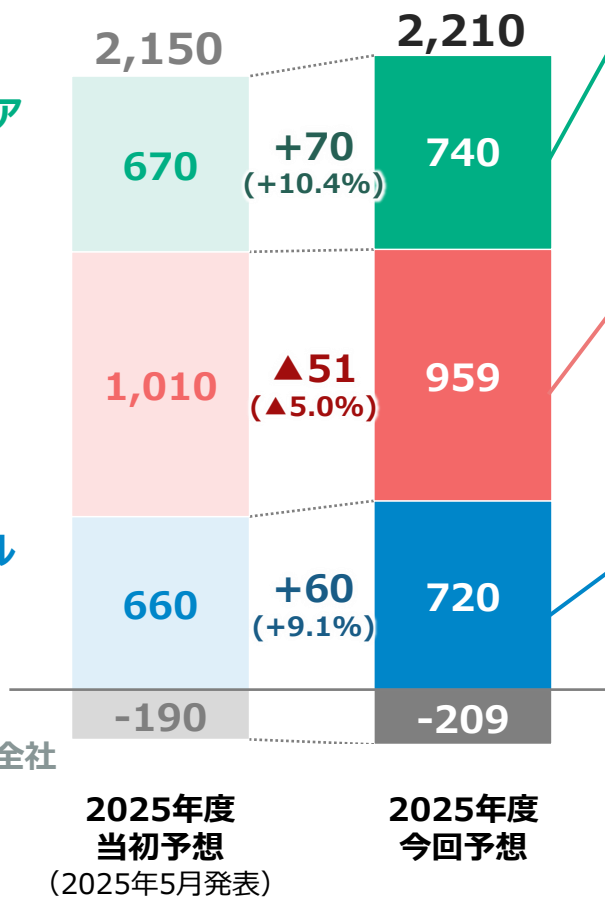
売上高 当初予想比

▲370億円（▲1.2%）



営業利益 当初予想比

+60億円（+2.8%）



■ 営業利益の主な増減要因

ヘルスケア

+70億円

医薬・ライフサイエンス事業における主力製品の販売量増加の効果が、クリティカルケア事業における除細動器の販売量の下振れ影響を上回り、上方修正

医薬・ライフサイエンス事業

+120億円

クリティカルケア事業

▲50億円

住宅

▲51億円

海外住宅事業の需要回復が当初想定より遅れており、下方修正

住宅事業

▲51億円

建材事業

±0億円

マテリアル

+60億円

エレクトロニクス事業やカーインテリア事業を中心に販売が堅調に推移することに加え、各事業での円安影響や固定費の減少により、上方修正

エレクトロニクス事業

+30億円

カーインテリア事業

+22億円

エナジー＆インフラ事業

+6億円

コンフォートライフ事業

+21億円

パフォーマンスケミカル事業

▲14億円

エッセンシャルケミカル事業

▲27億円

マテリアル共通

+22億円

営業利益率

為替の円高影響や石化市況の悪化等によるマイナス影響はあるが、医薬事業やエレクトロニクス事業など「重点成長」事業における利益成長により、前期比で若干の改善を見込む

ROIC

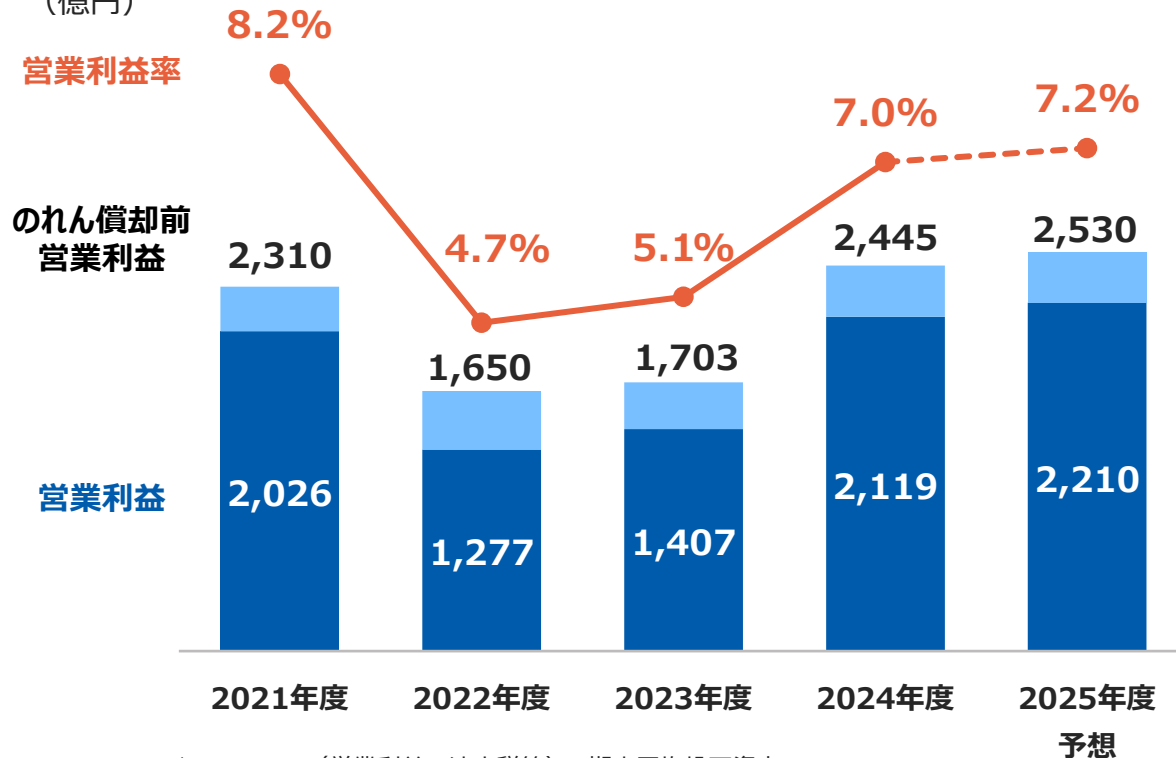
営業利益は増益を見込む一方、期中平均投下資本も増加を見込むため、前期並みの水準となる予想

ROE

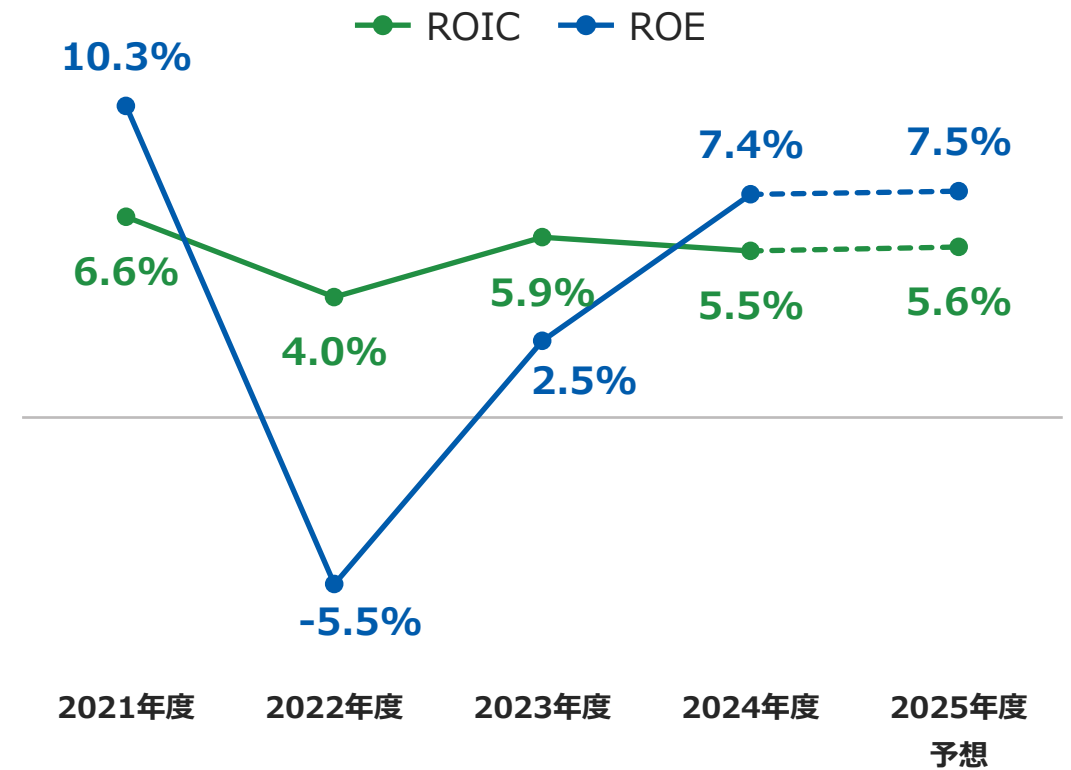
「マテリアル」におけるMMAの事業撤退等、構造転換の進捗に伴う損失を見込む一方、政策保有株式や「ヘルスケア」の事業譲渡に伴う売却益により、前期並みの水準となる予想

■ 営業利益／営業利益率の推移

(億円)

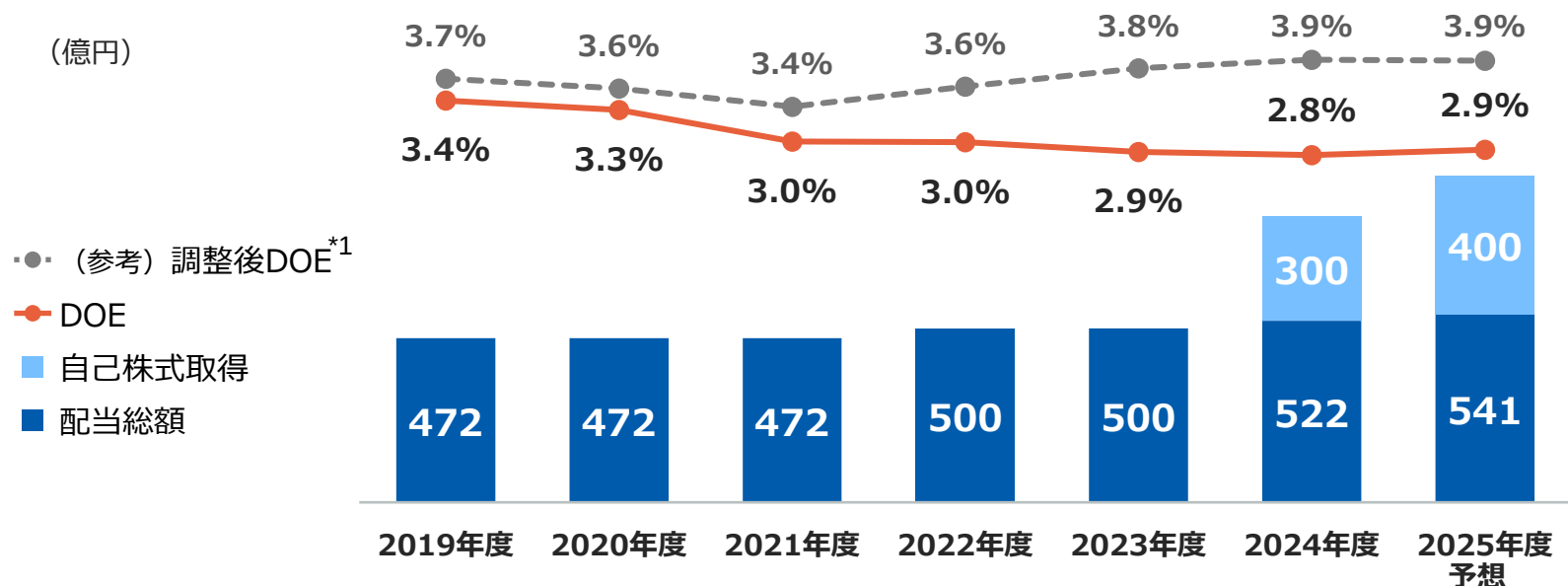


■ ROIC^{*1}／ROEの推移



*1 ROIC = (営業利益 - 法人税等) ÷ 期中平均投下資本

- 株主還元方針に従い、中間配当は20円とし、**年間配当は前期比で2円増配の40円を予想**（配当額は当初予想から変更なし）
- 企業価値向上に向けた施策として、**400億円を上限に自己株式取得の実施を決定**。資本構成適正化による資本効率向上を図る



1株当たり配当金(円)	34	34	34	36	36	38	40
配当性向	45.4%	59.1%	29.1%	-	113.9%	38.8%	38.8%
自己資本	13,593	14,675	16,874	16,603	18,134	18,594	18,954
調整後自己資本 (株主資本) ^{*2}	13,028	13,359	14,594	13,175	13,119	13,668	14,376

株主還元方針

- 中期的なFCFの見通しから、株主還元の水準を判断する
- DOE3%を目安**とした、中長期的な累進配当を目指す
- 自己株式取得は資本構成適正化に加え、投資案件やキャッシュフロー、株価の状況等を総合的に勘案して検討・実施する

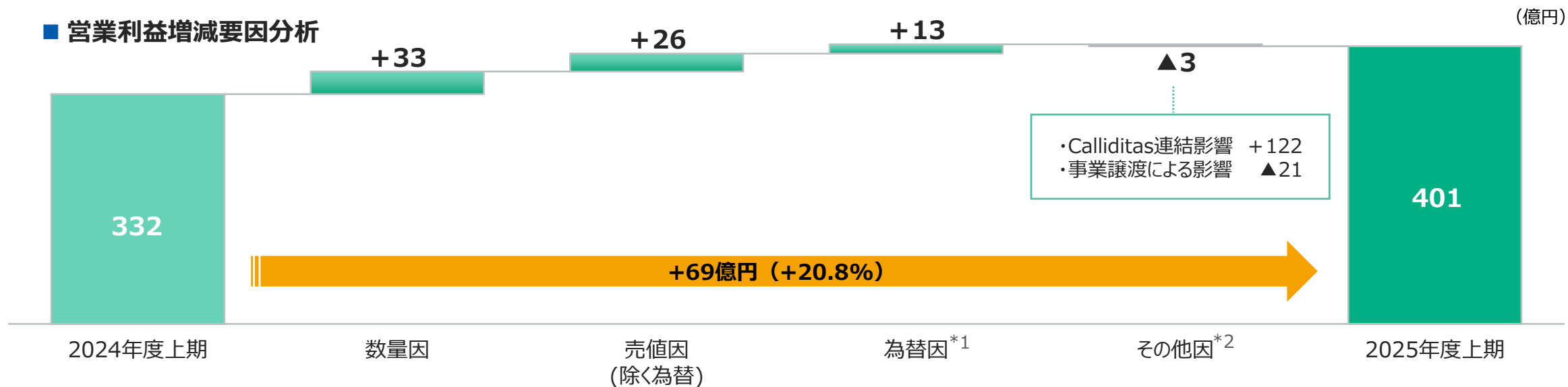
*1 調整後DOE = 配当総額 ÷ 調整後自己資本

*2 調整後自己資本 (株主資本) = 自己資本 - その他の資本構成要素

3. セグメント別詳細

医薬・ライフサイエンス事業における主力製品の販売量増加による数量因や、クリティカルケア事業におけるAED等の販売価格上昇による売値因のプラスがあり、増益

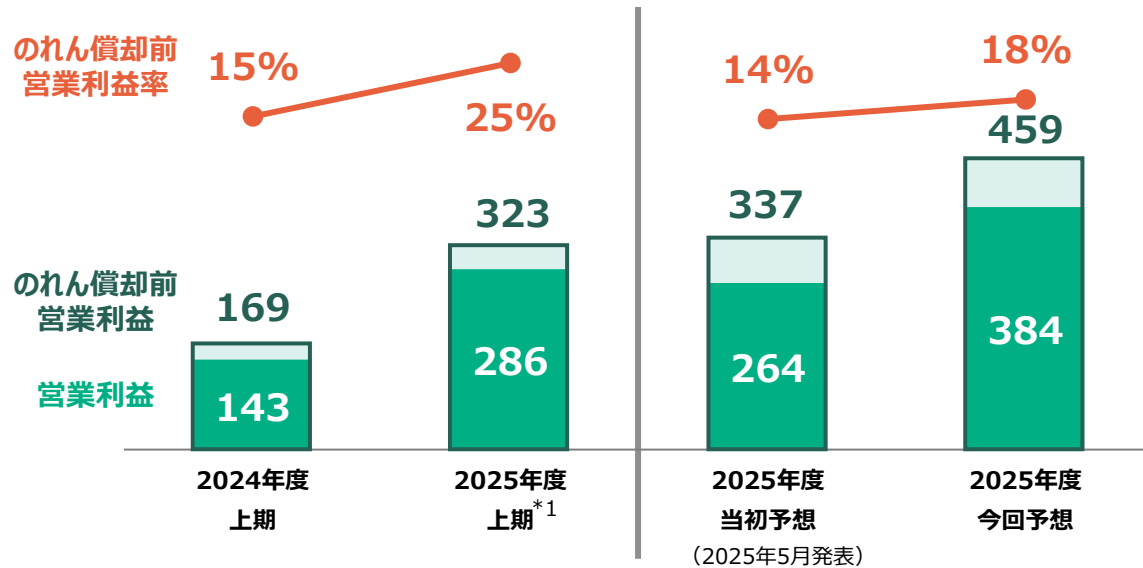
■ 営業利益増減要因分析



	売上高				営業利益							
	2024年度 上期	2025年度 上期	増減額	増減率	2024年度 上期	2025年度 上期	増減額	増減率	内訳			
									数量因	売値因 (除く為替)	為替因 ^{*1}	その他因 ^{*2}
ヘルスケアセグメント	2,927	3,068	141	+4.8%	332	401	69	+20.8%	33	26	13	-3
医薬・ライフサイエンス事業	1,135	1,276	141	+12.4%	143	286	143	+100.2%	79	2	0	61
クリティカルケア事業	1,792	1,792	-0	-0.0%	189	115	-74	-39.1%	-47	24	13	-64

*1 売値因に関連する為替因 *2 為替換算差、固定費差、ライセンス導入・導出等の一時収益・費用、新規連結 等

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

2025年度上期 vs 2024年度上期	● 医薬：Envarsus XRを中心とした主力製剤の販売量の増加やCalliditasの新規連結の効果等により、増益 ● ライフサイエンス：プラノバの販売量が増加したが、血液浄化事業の譲渡影響等により、減益
2025年度今回予想 vs 2025年度当初予想	● 医薬：TarpeyoやEnvarsus XRを中心とした主力製剤の販売量が想定を上回ること等により、上方修正 ● ライフサイエンス：プラノバの販売量増加により、上方修正

医薬



重点成長

- Envarsus XR（Veloxis）、Tarpeyo（Calliditas）、国内主力製剤の利益成長
- 免疫・移植等の周辺疾患領域にフォーカスした、成長投資の継続（追加M&A、ライセンスイン）

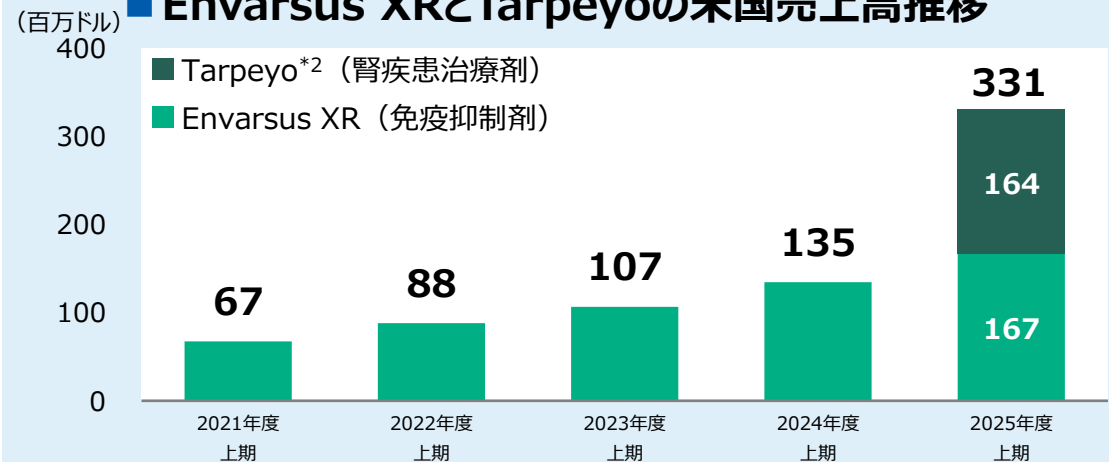
ライフサイエンス



戦略的育成

- プラノバ（ウイルス除去フィルター）の着実な成長
- Bionova（CDMO事業）の受注拡大

■ Envarsus XRとTarpeyoの米国売上高推移



*2 新規連結に伴い、2024年10月より当社で売上を計上

*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は38ページ参照

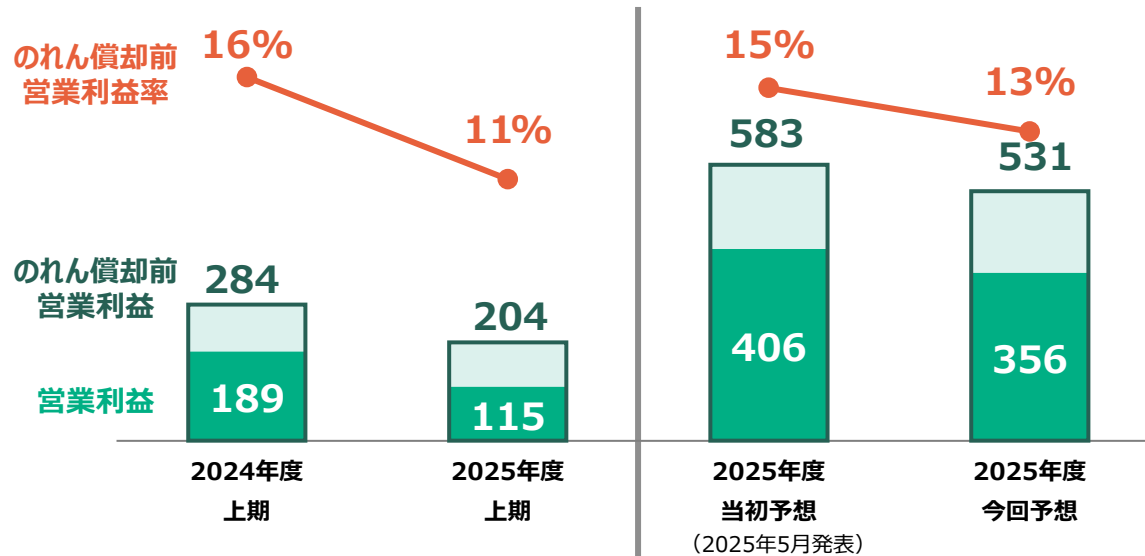
(売上高の対象地域、単位)	2024年度		2025年度	上期 前年同期比	
	上期	年間	上期	増減額	増減率
<Veloxis>					
Envarsus XR (米国、百万ドル)	135	295	167	32	+24.1%
<Calliditas>					
Tarpeyo (米国、百万ドル)		104	164	164	-*
<旭化成ファーマ>					
テリボン (国内、億円)	205	410	218	13	+6.3%
リクラスト (")	6	12	6	-0	-7.1%
ケブザラ (")	55	97	61	7	+12.1%
プラケニル (")	32	55	11	-21	-66.4%
リコモジュリン (")	35	68	32	-3	-8.5%
クレセンバ (")	16	40	31	16	+101.1%
エムパベリ (")	10	19	10	-0	-3.8%

*（参考）Calliditas連結前の前年同期比の増減率は+73.7%

製品名	一般名	薬効・分類	適応症	剤形
Envarsus XR	タクロリムス徐放製剤	免疫抑制剤	腎移植	錠剤
Tarpeyo	ブデソニド放出遅延製剤	腎疾患治療剤	疾患進行のリスクがある原発性IgA腎症	カプセル剤
テリボン	テリパラチド酢酸塩	骨粗鬆症治療剤（副甲状腺ホルモン：PTH）	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	注射剤
リクラスト	ゾレドロン酸水和物	骨粗鬆症治療剤	骨粗鬆症	注射剤
ケブザラ	サリルマブ（遺伝子組換え）	関節リウマチ治療剤	既存治療で効果不十分な関節リウマチ	注射剤
プラケニル	ヒドロキシクロロキン硫酸塩	免疫調整剤	皮膚エリテマトーデス、全身性エリテマトーデス	錠剤
リコモジュリン	トロンボモデュリンアルファ（遺伝子組換え）	血液凝固阻止剤	DIC（汎発性血管内血液凝固症）	注射剤
クレセンバ	イサブコナゾニウム硫酸塩	深在性真菌症治療剤	アスペルギルス症、ムーコル症、クリプトコックス症	カプセル剤、注射剤
エムパベリ	ペグセタコプラン皮下注製剤	補体（C3）阻害剤	発作性夜間ヘモグロビン尿症	注射剤

		開発コード（一般名）	適応症	起源	開発	備考（地域他）
国内	フェーズⅢ	TA799 （アブラグルチド）	短腸症候群	導入	他社	日本におけるフェーズⅠは 当社が実施
	フェーズⅢ	ART-123 （トロンボモデュリン アルファ（遺伝子組換え））	化学療法誘発性 末梢神経障害	自社	自社	効能追加 （日米共同フェーズⅠ完了）
	フェーズⅡ	AK1830	変形性関節症に伴う疼痛	導入	自社	
	フェーズⅡ		慢性腰痛症に伴う疼痛			
	フェーズⅠ	AK1910	自己免疫疾患	導入	自社	
海外	フェーズⅢ	ART-123 （トロンボモデュリン アルファ（遺伝子組換え））	凝固異常を伴う重症敗血症	自社	自社	米国・欧州他
	フェーズⅠ	ART-123 （トロンボモデュリン アルファ（遺伝子組換え））	化学療法誘発性 末梢神経障害	自社	自社	米国 （日米共同フェーズⅠ完了）
	フェーズⅠ	VEL-101	臓器移植	導入	自社	米国他

■ 営業利益の推移（億円）



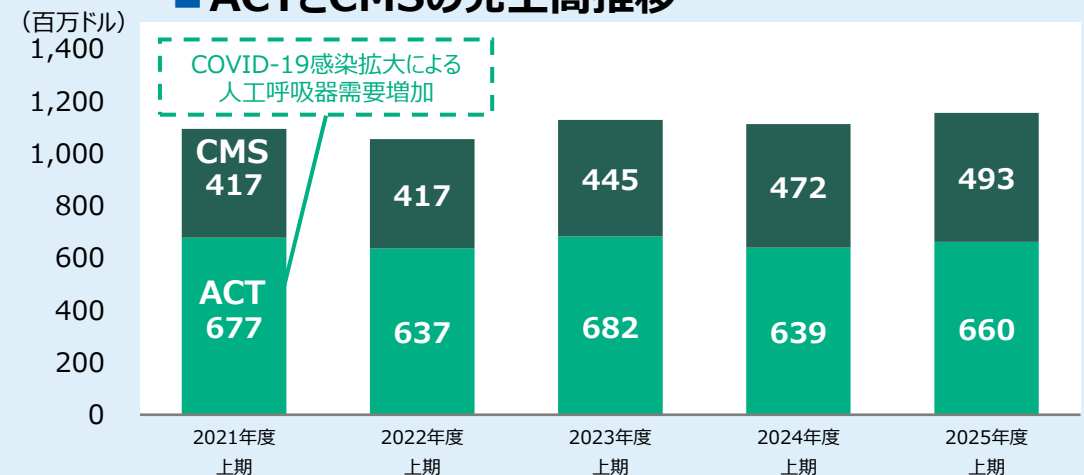
■ 営業利益の主な変動要因

2025年度 上期 vs 2024年度 上期	● ACT : AED等の販売価格が上昇したが、除細動器の新製品の上市前の買い控えや販管費の増加等により、減益 ● CMS : 円高影響があったが、LifeVestの新規患者数の増加により、増益 ● 睡眠時無呼吸症診断デバイス : 販売量の増加により、増益
2025年度 今回予想 vs 2025年度 当初予想	● ACT : 除細動器の新製品の上市遅れや一過性の販管費の増加等により、下方修正 ● CMS : LifeVestの新規患者数の増加により、上方修正 ● 睡眠時無呼吸症診断デバイス : 想定通り

クリティカルケア



- ACT^{*1}における除細動器やAED等のシェア拡大による堅実な成長
- CMS^{*2}における、「LifeVest」の潜在市場への浸透
- 睡眠時無呼吸症診断・治療デバイス（Itamar、Respicardia）等の新規機器の需要創出、および収益拡大

■ ACTとCMSの売上高推移^{*3}

^{*1} Acute Care Technology : 除細動器、AED、心肺蘇生関連、体温管理、ソフトウェアソリューション等

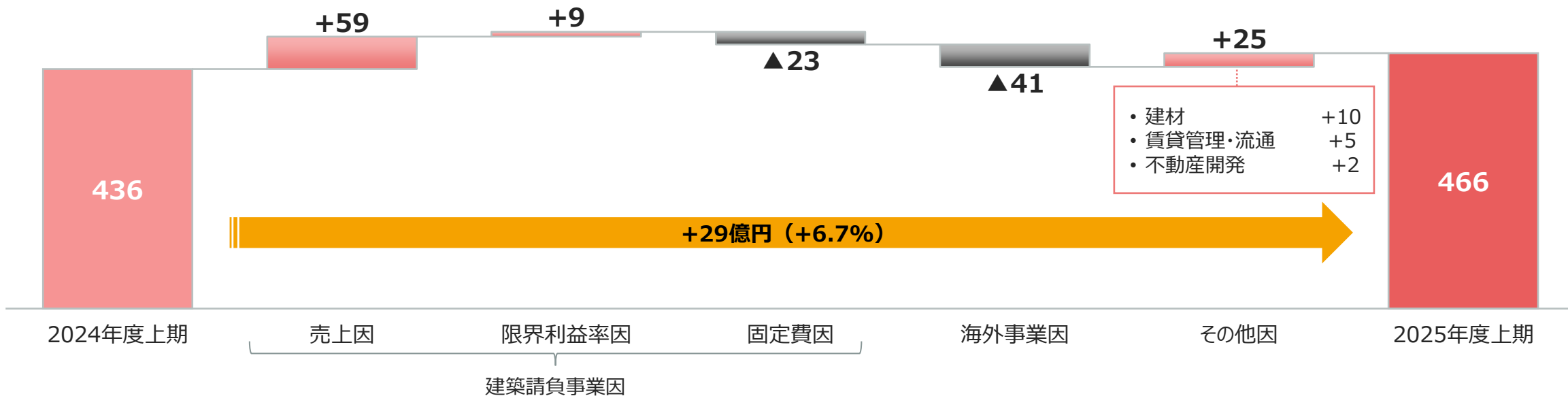
^{*2} Cardiac Management Solutions : 着用型自動除細動器「LifeVest」、心疾患診断・管理等

^{*3} 2023年度以前の実績については、参考情報として現在の事業区分に簡便的に組み替えて表示している

海外住宅事業のマイナス影響を、建築請負事業の売上因や限界利益率因の改善、その他国内事業のプラス効果が上回り、増益

■ 営業利益増減要因分析

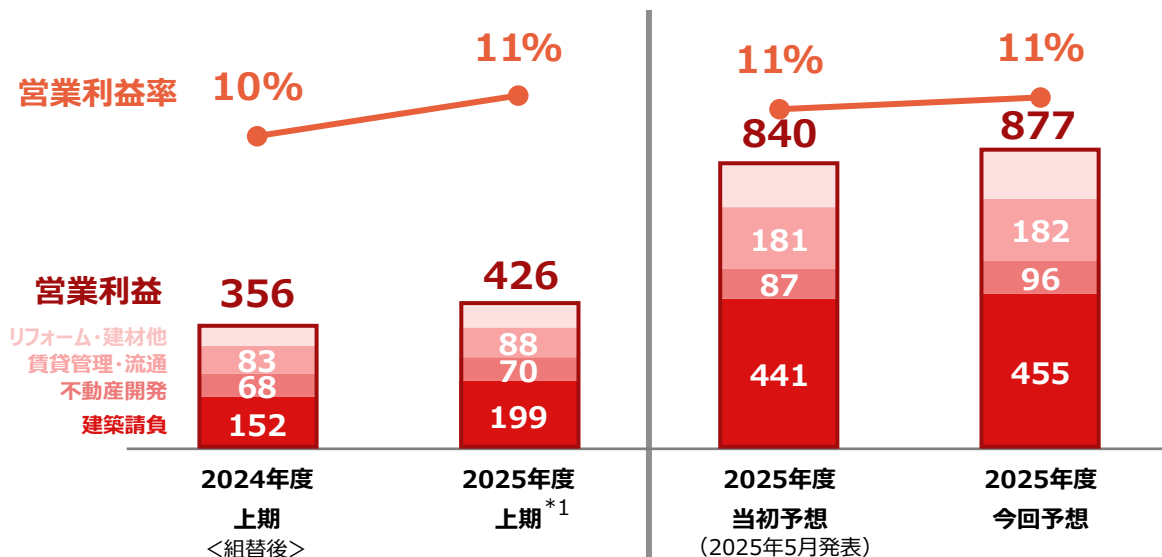
(億円)



	売上高				営業利益								
	2024年度 上期	2025年度 上期	増減額	増減率	2024年度 上期	2025年度 上期	増減額	増減率	内訳				
									建築請負事業			海外事業因	その他因
									売上因	限界利益率因	固定費因		
住宅セグメント	5,052	5,265	213	+4.2%	436	466	29	+6.7%	59	9	-23	-41	25
住宅事業	4,842	5,051	209	+4.3%	419	438	19	+4.6%	59	9	-23	-41	15 ^{*1}
建材事業	209	213	4	+1.8%	17	27	10	+60.3%	-	-	-	-	10

*1 不動産開発、リフォーム、賃貸管理・不動産流通、その他

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

2025年度 上期 vs 2024年度 上期	↗	● 建築請負：物件の大型化・高付加価値化による平均単価の上昇やコストダウンによる限界利益率の改善により、増益 ● 不動産開発：分譲マンションの販売戸数は減少したが、固定費削減により、増益 ● 賃貸管理・不動産流通：管理戸数が堅調に増加し、増益
2025年度 今回予想 vs 2025年度 当初予想	↗	● 建築請負：固定費削減により、上方修正 ● 不動産開発：当初想定より販売が進捗したため、上方修正 ● 賃貸管理・不動産流通：想定通り

不動産開発



戦略的育成

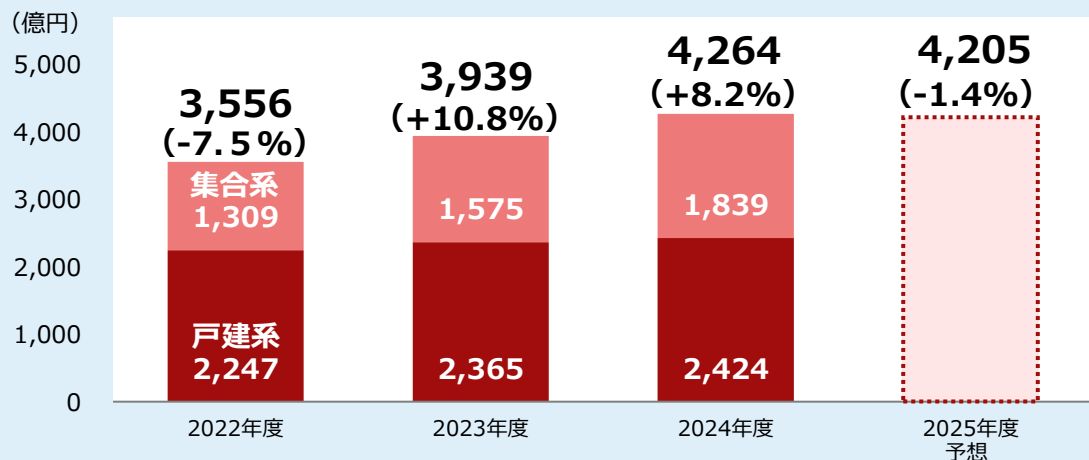
- 土地仕入れ力強化および土地を活用したビジネスの拡大

建築請負、賃貸管理・不動産流通、
リフォーム、建材

収益基盤維持・拡大

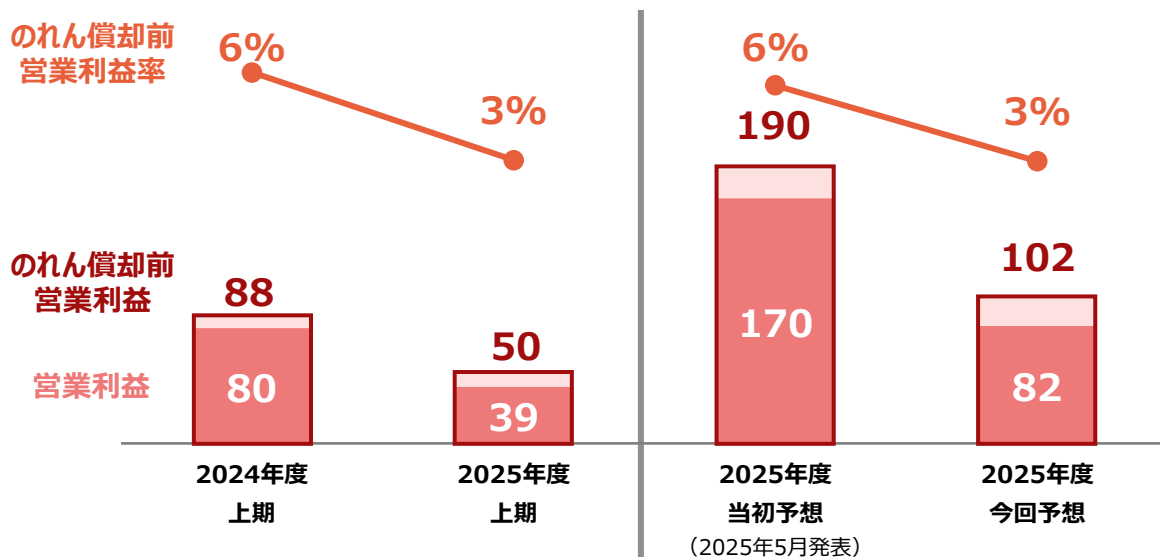
- 建築請負事業における、大型化・高付加価値化、集合住宅事業を拡大することによる、収益力の強化

■ 建築請負事業の受注高推移（カッコ内は前期比増減率）



*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は38ページ参照

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

2025年度 上期 vs 2024年度 上期	● 北米：ODCの新規連結により増収だが、住宅需要の減少に伴う数量減少や価格対応により、減益 ● 豪州：住宅需要の減少に伴う数量減少により、減益
2025年度 今回予想 vs 2025年度 当初予想	● 北米：住宅需要の回復が当初想定より遅れているため、下方修正 ● 豪州：想定通り

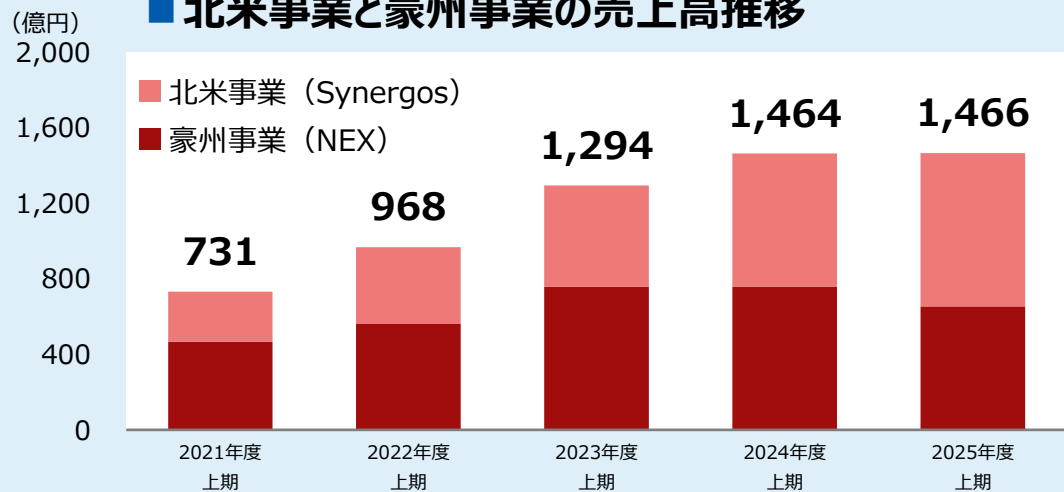
海外住宅



重点成長

- 北米事業における、サプライヤーを水平統合することによって建築工程の中核となる業種を統合し、工期短縮や高品質な住まいの提供を目指すビジネスモデル（Synergosモデル）の強化。エリア拡大における持続的成長
- 豪州事業における、更なるシェア拡大、および業務プロセス改善による収益性・資本効率の改善

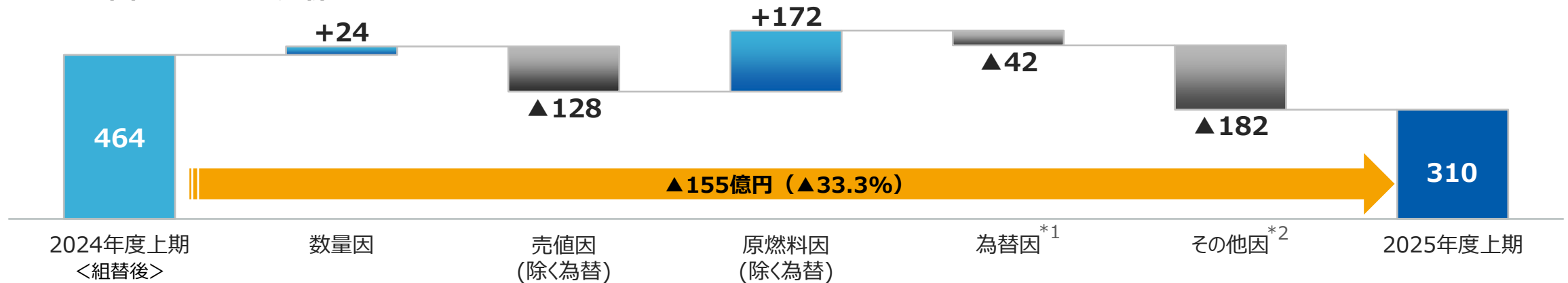
■ 北米事業と豪州事業の売上高推移



数量因はエレクトロニクス事業を中心にプラスとなったが、エッセンシャルケミカル事業における在庫受払差や定期修理の影響、各事業における固定費増加等によるその他因のマイナスにより、減益（為替因を含む交易条件は前年同期並み）

■ 営業利益増減要因分析

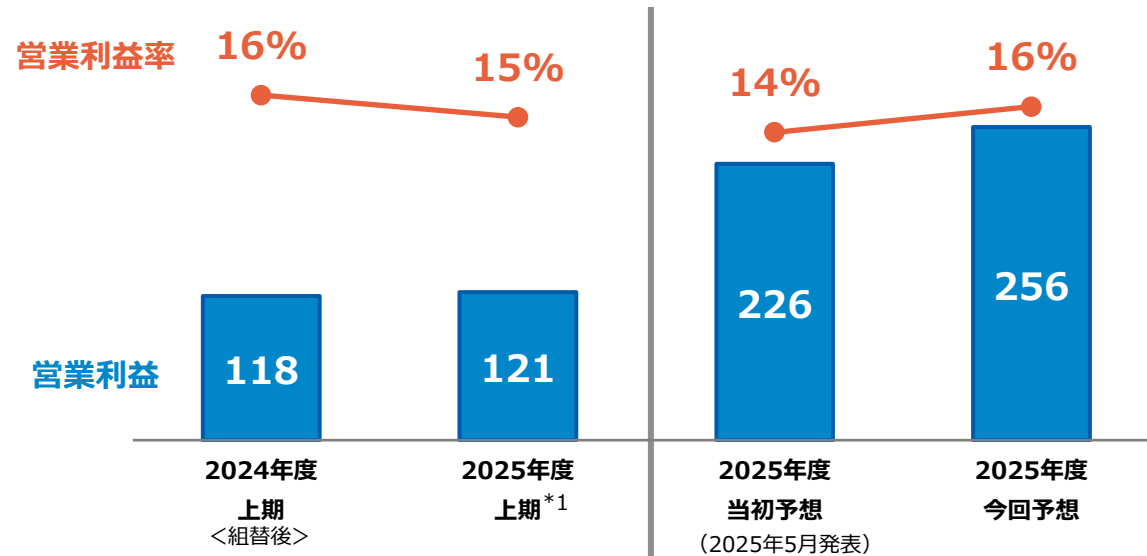
(億円)



	売上高				営業利益								
	2024年度 上期 <組替後>	2025年度 上期	増減額	増減率	2024年度 上期 <組替後>	2025年度 上期	増減額	増減率	内訳				
									数量因	売値因 (除く為替)	原燃料因 (除く為替)	為替因 ^{*1}	その他因 ^{*2}
マテリアルセグメント	6,857	6,378	-479	-7.0%	464	310	-155	-33.3%	24	-128	172	-42	-182
エレクトロニクス事業	725	796	71	+9.7%	118	121	3	+2.8%	47	4	-3	-15	-30
カーインテリア事業	778	792	14	+1.8%	57	42	-15	-26.5%	3	8	0	0	-27
エナジー & インフラ事業	702	631	-71	-10.2%	15	2	-13	-88.5%	3	2	-6	-11	-1
コンフォートライフ事業	1,298	1,248	-51	-3.9%	109	82	-27	-24.9%	-14	2	4	-3	-16
パフォーマンスケミカル事業	1,264	1,124	-141	-11.1%	55	28	-27	-49.6%	5	-26	29	-9	-27
エッセンシャルケミカル事業	2,070	1,760	-310	-15.0%	126	26	-99	-79.0%	-20	-118	155	-5	-112 ^{*3}
マテリアル共通	20	29	9	+48.0%	-15	9	24	-	-	-	-7 ^{*3}	-	31 ^{*3}

*1 売値因・原燃料因に関連する為替因 *2 為替換算差、固定費差、在庫影響等 *3 エッセンシャルケミカル事業の営業利益の「その他因」には社内売値差が含まれているが、マテリアル全体としては「原燃料因」に含まれるものであるため、要因分析の補正として、相当する額をマテリアル共通の「原燃料因」と「その他因」にそれぞれプラスとマイナスで含めて表示している

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

2025年度 上期 vs 2024年度 上期	↗	● 電子材料：円高影響があったが、パイメルやガラスクロス等のAI用途向けの関連製品が堅調に推移し、増益 ● 電子部品：カメラモジュール向け製品を中心に販売量を伸ばしたが、円高影響等により、減益
2025年度 今回予想 vs 2025年度 当初予想	↗	● 電子材料：AI用途向けの関連製品の需要が当初想定以上に伸びており、上方修正 ● 電子部品：想定通り

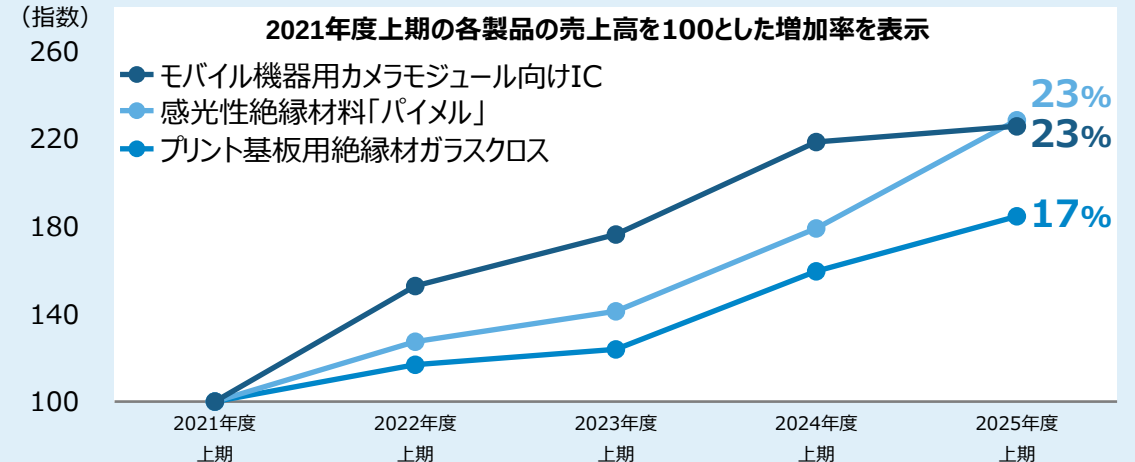
エレクトロニクス



重点成長

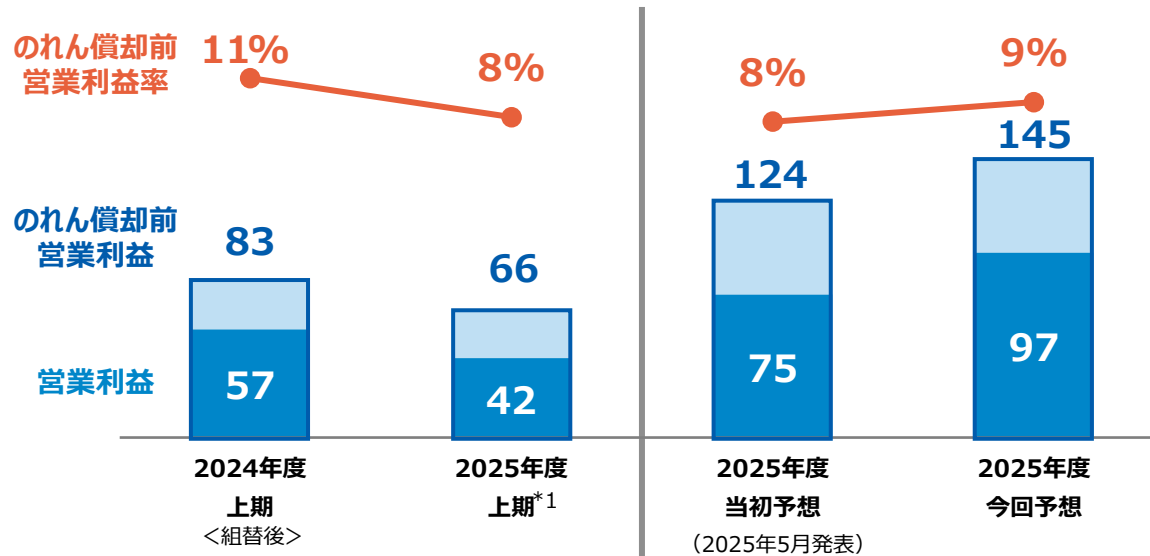
- 電子材料における、半導体チップ、基板・実装工程材料での実績をベースとした“先端半導体パッケージ市場”に最適な材料の提案
- 特に、パイメル（半導体保護膜／層間絶縁膜）は、拡大するAIサーバー向け等最先端半導体の旺盛な需要に合わせて、生産能力を増強
- 新規電子材料の開発および事業化の推進

■ 主力製品の売上高CAGR（2021年度上期→2025年度上期）



*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は38ページ参照

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

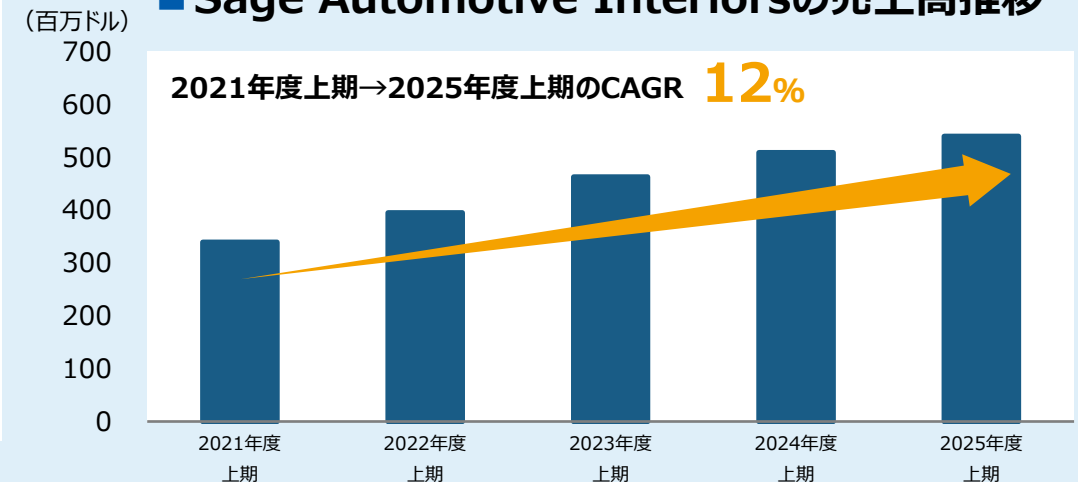
2025年度 上期 vs 2024年度 上期	↓	欧州を中心に販売量は増加した一方、円高影響や販管費の増加等により、減益
2025年度 今回予想 vs 2025年度 当初予想	↑	欧州を中心に販売が堅調に推移していることに加え、当初想定時より円安を見込み、上方修正

カーインテリア

収益基盤維持・拡大

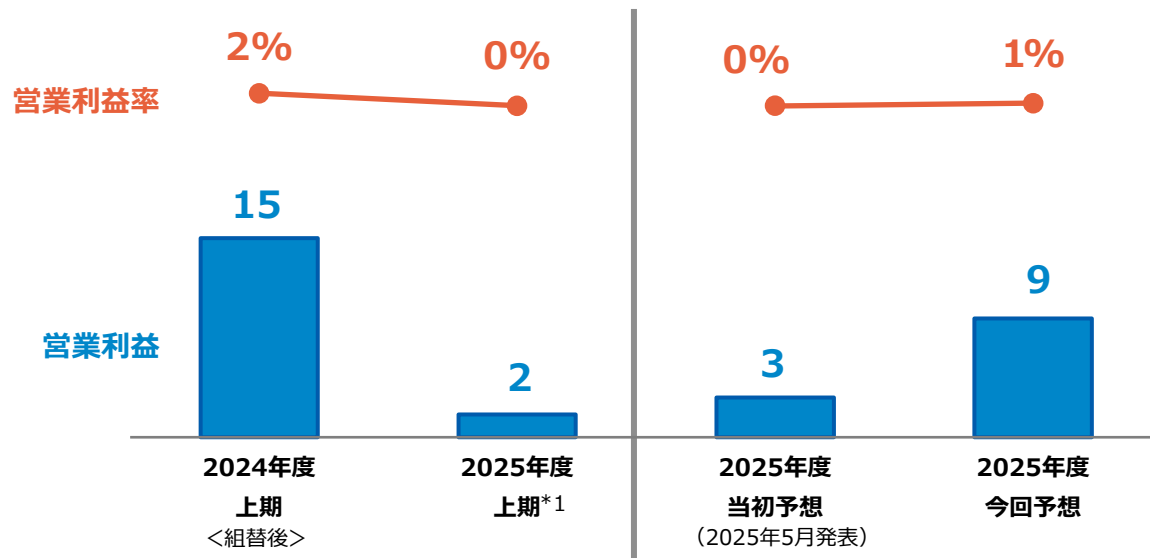
- 顧客ニーズに合わせた商品ラインナップと革新的なデザイン、先進の加飾・後加工技術を強みとしたソリューション型事業としての着実な利益成長
- 米国、欧州、日本、中国と地域ごとに適地生産体制を整備し、プラットフォーム構築を推進

■ Sage Automotive Interiorsの売上高推移



*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は38ページ参照

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

2025年度 上期 vs 2024年度 上期	● セパレータ：ハイポア事業において販管費が増加したが、ポリポア事業（LIB用乾式セパレータ、鉛蓄電池用セパレータ）における生産性向上やコストダウンの取り組み等により、増益 ● イオン交換膜：電解プラントの販売が減少したこと等から、減益
2025年度 今回予想 vs 2025年度 当初予想	● セパレータ：ハイポア事業は販売量増加の一方で販売構成差によるマイナスを見込むが、ポリポア事業における販売量の増加、生産性向上やコストダウンの取り組み等により、当初予想並み ● イオン交換膜：堅調に推移し、当初予想並み

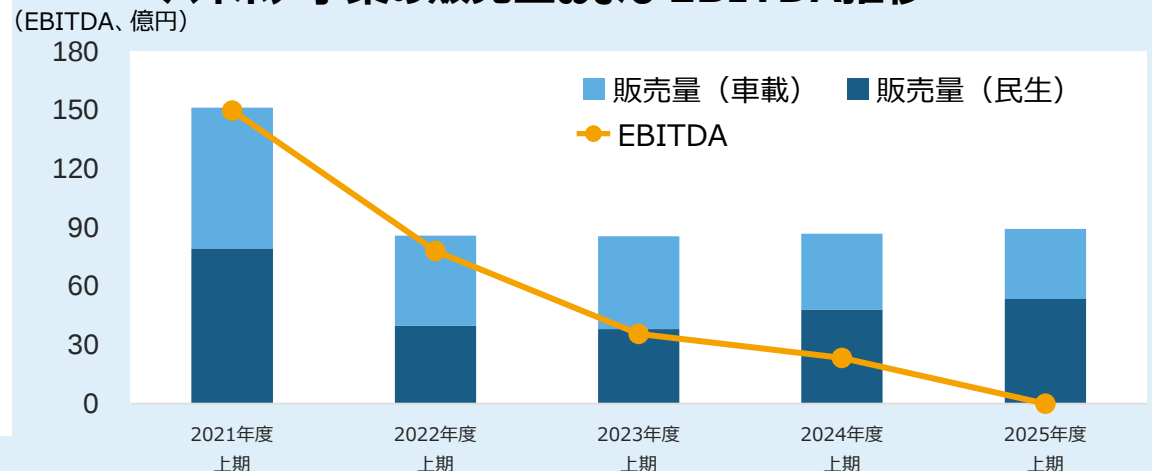
エネルギー&インフラ



戦略的育成

- セパレータ事業における、ハイポア（LIB用湿式セパレータ）の需要回復に応じた収益改善。北米工場の稼働は2027年度下期より、本格的な収益貢献は2028年度より想定
- イオン交換膜法食塩電解事業の拡大に向けた生産能力増強、および長年培ってきた事業基盤をベースとしたソリューション型事業としての安定的な利益成長

■ ハイポア事業の販売量およびEBITDA推移



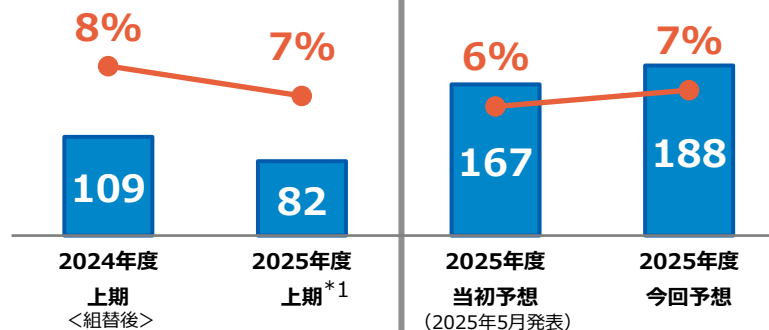
*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は38ページ参照

■ 営業利益の推移（億円）

■ 営業利益 ■ 営業利益率

収益基盤維持・拡大

コンフォートライフ

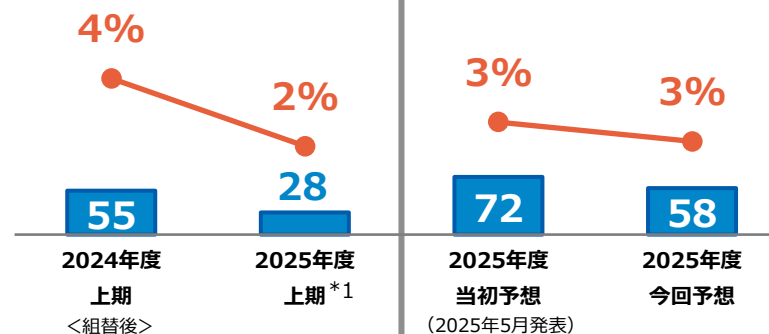


■ 営業利益の主な変動要因

2025年度 上期 VS 2024年度 上期	↓	円高影響や繊維事業の販売量減少等により、減益
2025年度 今回予想 VS 2025年度 当初予想	↑	繊維事業の販売量が当初想定を下回るが、消費財事業等が順調に推移し、上方修正

収益改善・事業モデル転換

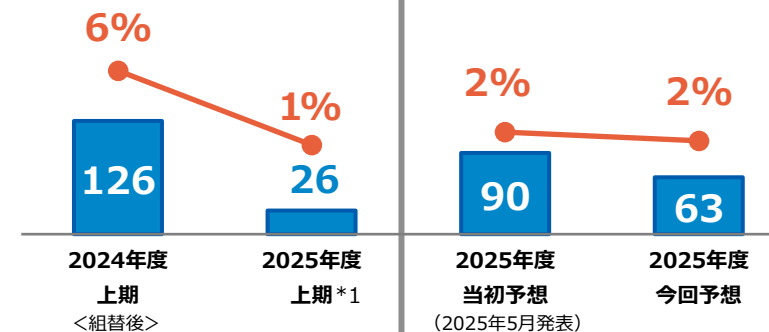
パフォーマンスケミカル



2025年度 上期 VS 2024年度 上期	↓	円高影響および市況下落による交易条件の悪化、定期修理の影響等により、減益
2025年度 今回予想 VS 2025年度 当初予想	↓	当初想定を下回る市況による交易条件の悪化や販売量減少等により、下方修正

収益改善・事業モデル転換

エッセンシャルケミカル



2025年度 上期 VS 2024年度 上期	↓	定期修理や市況下落に伴う在庫受払差によるマイナス影響等により、減益
2025年度 今回予想 VS 2025年度 当初予想	↓	需要の減少に伴う販売量の減少や、石化関連市況の悪化に伴う交易条件の悪化等により、下方修正

*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は38ページ参照

全社共通費の配賦比率変更影響

2025年度より全社共通費の配賦比率を変更したことに伴い、各セグメントおよびサブセグメントの営業利益において、前年同期比の減益要因となっている（全社の営業利益に影響はなし）

＜上期の影響額＞

	2024年度上期 営業利益 ＜組替後＞	2025年度上期 営業利益	増減	うち 配賦基準変更影響
ヘルスケアセグメント	332	401	69	-5
医薬・ライフサイエンス	143	286	143	-5
クリティカルケア	189	115	-74	-
住宅セグメント	436	466	29	-8
住宅	419	438	19	-6
建材	17	27	10	-2
マテリアルセグメント	464	310	-155	-19
エレクトロニクス	118	121	3	-3
カーインテリア	57	42	-15	-1
エナジー & インフラ	15	2	-13	-4
コンフォートライフ	109	82	-27	-3
パフォーマンスケミカル	55	28	-27	-2
エッセンシャルケミカル	126	26	-99	-5
マテリアル共通	-15	9	24	-2
その他	8	21	13	-
消去又は全社	-152	-122	29	32
合 計	1,089	1,075	-15	-

＜通期の影響額＞

（億円）

	2024年度 営業利益 ＜組替後＞	2025年度 営業利益 予想	増減	うち 配賦基準変更影響
ヘルスケアセグメント	640	740	100	-10
医薬・ライフサイエンス	266	384	118	-10
クリティカルケア	374	356	-18	-
住宅セグメント	959	959	0	-16
住宅	913	910	-3	-12
建材	46	49	3	-3
マテリアルセグメント	799	720	-79	-38
エレクトロニクス	221	256	35	-5
カーインテリア	108	97	-11	-1
エナジー & インフラ	28	9	-19	-7
コンフォートライフ	197	188	-9	-6
パフォーマンスケミカル	77	58	-19	-5
エッセンシャルケミカル	202	63	-139	-10
マテリアル共通	-35	49	84	-3
その他	29	35	6	-
消去又は全社	-309	-244	65	64
合 計	2,119	2,210	91	-

売上高詳細

AsahiKASEI

(億円)

				2024年度 ＜組替後＞			2025年度 予想	上期 前年同期比 増減率	通期 前期比 増減率	2025年度 当初予想 (2025年5月発表)	当初予想比 増減率
	上期	下期	上期		下期予想						
ヘルスケアセグメント	2,927	3,232	6,159	3,068	3,392	6,460	+4.8%	+4.9%	6,130	+5.4%	
医薬・ライフサイエンス事業	1,135	1,317	2,452	1,276	1,244	2,520	+12.4%	+2.8%	2,340	+7.7%	
医薬事業	662	860	1,522	996	994	1,990	+50.5%	+30.8%	1,840	+8.2%	
ライフサイエンス事業	473	457	930	281	249	530	-40.7%	-43.0%	500	+6.0%	
クリティカルケア事業	1,792	1,915	3,707	1,792	2,148	3,940	-0.0%	+6.3%	3,790	+4.0%	
住宅セグメント	5,052	5,307	10,359	5,265	5,595	10,860	+4.2%	+4.8%	11,190	-2.9%	
住宅事業	4,842	5,093	9,935	5,051	5,369	10,420	+4.3%	+4.9%	10,740	-3.0%	
建築請負事業	1,940	2,255	4,195	2,112	2,277	4,390	+8.9%	+4.6%	4,410	-0.5%	
不動産開発事業	336	191	527	251	234	485	-25.2%	-7.9%	475	+2.1%	
賃貸管理・流通事業	808	873	1,681	905	960	1,865	+12.0%	+11.0%	1,865	±0.0%	
リフォーム事業	280	297	578	300	340	640	+6.9%	+10.7%	650	-1.5%	
海外住宅事業	1,464	1,466	2,930	1,466	1,534	3,000	+0.1%	+2.4%	3,400	-11.8%	
その他	13	11	24	17	23	40	+27.6%	+65.5%	-60	-	
建材事業	209	214	423	213	227	440	+1.8%	+3.9%	450	-2.2%	
マテリアルセグメント	6,857	6,831	13,688	6,378	6,832	13,210	-7.0%	-3.5%	13,660	-3.3%	
エレクトロニクス事業	725	743	1,467	796	834	1,630	+9.7%	+11.1%	1,560	+4.5%	
カーインテリア事業	778	815	1,593	792	778	1,570	+1.8%	-1.5%	1,530	+2.6%	
エナジー & インフラ事業	702	680	1,382	631	799	1,430	-10.2%	+3.5%	1,440	-0.7%	
コンフォートライフ事業	1,298	1,373	2,671	1,248	1,462	2,710	-3.9%	+1.4%	2,820	-3.9%	
パフォーマンスケミカル事業	1,264	1,209	2,474	1,124	1,126	2,250	-11.1%	-9.0%	2,310	-2.6%	
エッセンシャルケミカル事業	2,070	1,973	4,043	1,760	1,810	3,570	-15.0%	-11.7%	3,940	-9.4%	
マテリアル共通	20	37	57	29	21	50	+48.0%	-12.2%	60	-16.7%	
その他	67	101	168	152	118	270	+127.0%	+60.9%	190	+42.1%	
合 計	14,903	15,470	30,373	14,864	15,936	30,800	-0.3%	+1.4%	31,170	-1.2%	

営業利益詳細

AsahiKASEI

(億円)

			2024年度 ＜組替後＞			2025年度* ¹ 予想	上期 前年同期比 増減率	通期 前期比 増減率	2025年度 当初予想 (2025年5月発表)	当初予想比 増減率
	上期	下期		上期	下期予想					
ヘルスケアセグメント	332	308	640	401	339	740	+20.8%	+15.6%	670	+10.4%
医薬・ライフサイエンス事業	143	124	266	286	98	384	+100.2%	+44.1%	264	+45.5%
クリティカルケア事業	189	185	374	115	241	356	-39.1%	-4.8%	406	-12.3%
住宅セグメント	436	523	959	466	493	959	+6.7%	+0.0%	1,010	-5.0%
住宅事業	419	494	913	438	472	910	+4.6%	-0.4%	961	-5.3%
建築請負事業	152	294	446	199	256	455	+30.7%	+2.1%	441	+3.2%
不動産開発事業	68	23	91	70	26	96	+2.9%	+5.2%	87	+10.3%
賃貸管理・流通事業	83	88	171	88	95	182	+6.0%	+7.0%	181	+0.8%
リフォーム事業	34	40	74	31	47	79	-7.3%	+6.9%	78	+0.8%
海外住宅事業	80	43	123	39	42	82	-50.9%	-33.5%	170	-52.0%
その他	3	7	10	12	5	16	+291.5%	+70.0%	4	+308.8%
建材事業	17	29	46	27	22	49	+60.3%	+7.2%	49	±0.0%
マテリアルセグメント	464	335	799	310	410	720	-33.3%	-9.9%	660	+9.1%
エレクトロニクス事業	118	104	221	121	135	256	+2.8%	+15.6%	226	+13.3%
カーインテリア事業	57	51	108	42	55	97	-26.5%	-10.0%	75	+29.3%
エナジー & インフラ事業	15	13	28	2	7	9	-88.5%	-68.4%	3	+200.0%
コンフォートライフ事業	109	88	197	82	106	188	-24.9%	-4.6%	167	+12.6%
パフォーマンスケミカル事業	55	22	77	28	30	58	-49.6%	-24.3%	72	-19.4%
エッセンシャルケミカル事業	126	76	202	26	37	63	-79.0%	-68.8%	90	-30.0%
マテリアル共通	-15	-20	-35	9	40	49	-	-	27	+81.5%
その他	8	21	29	21	14	35	+149.9%	+19.5%	30	+16.7%
消去又は全社	-152	-157	-309	-122	-122	-244	-	-	-220	-
合 計	1,089	1,030	2,119	1,075	1,135	2,210	-1.3%	+4.3%	2,150	+2.8%

*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は38ページ参照

4. 参考資料

【2025年度からの開示区分】

セグメント	サブセグメント	主な事業
ヘルスケア	医薬・ライフサイエンス	医薬（国内・海外） ライフサイエンス（ウイルス除去フィルター・CDMO他）
	クリティカルケア	ACT（除細動器・AED他） CMS（着用型自動除細動器「LifeVest」他） 睡眠時無呼吸症診断・治療デバイス
住宅	住宅	建築請負（戸建・集合） 不動産開発（分譲マンション）^{*1} 賃貸管理・不動産流通^{*1}
	建材	リフォーム 海外住宅（北米・豪州） 断熱材 ALC（軽量気泡コンクリート）
マテリアル ^{*2}	エレクトロニクス	電子材料 電子部品
	カーインテリア	自動車内装材
	エナジー＆インフラ	セパレータ イオン交換膜 中空糸膜（マイクロザ）
	コンフォートライフ	高機能マテリアル（添加剤他） 繊維 消費財（サランラップ他）
	パフォーマンスケミカル	エンジニアリング樹脂 機能性コーティング
	エッセンシャルケミカル	基盤マテリアル（石化関連事業） エラストマー
その他		
消去又は全社 ^{*2}		

【旧区分】

サブセグメント
医薬・医療
クリティカルケア
住宅
建材
ライフイノベーション （デジタルソリューション）
モビリティ＆インダストリアル
環境ソリューション
ライフイノベーション
モビリティ＆インダストリアル
環境ソリューション

（注記）

2024年度の実績に関して＜組替後＞と表示している箇所では、2025年度からの開示区分の変更を遡って反映した数値を記載している

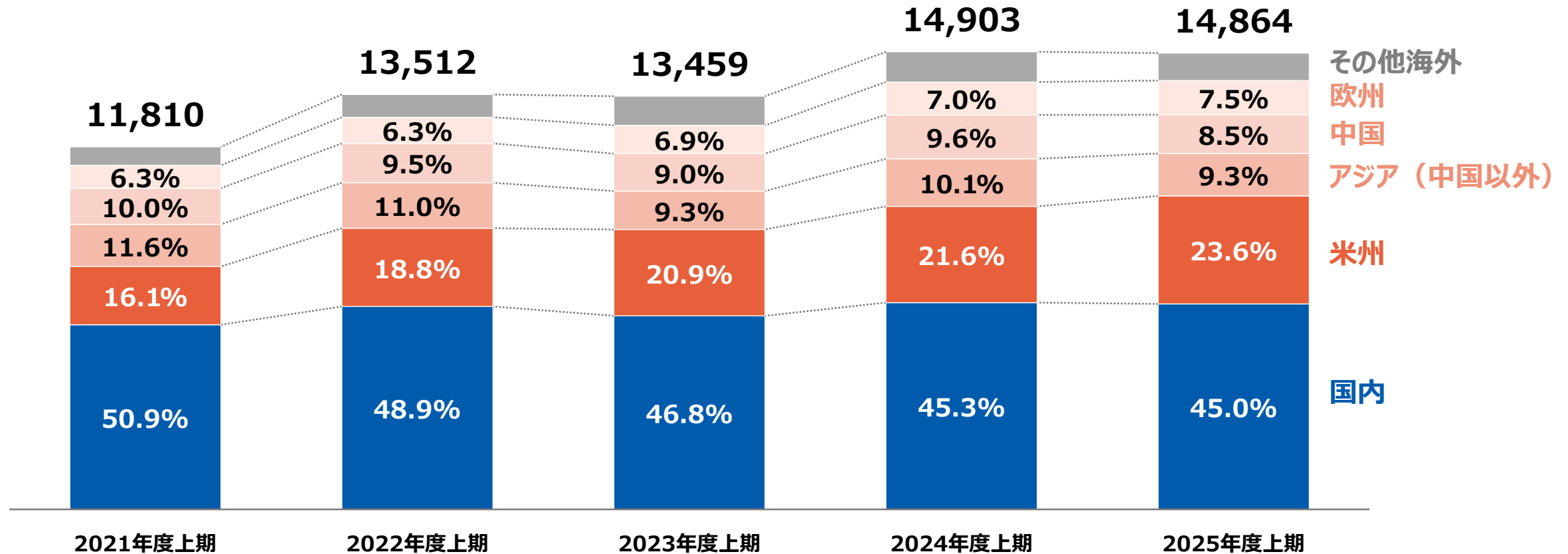
また、2025年度より以下の内容も変更となるため、併せて組替えに反映している

^{*1} 住宅事業の「不動産部門」について、従来「開発事業」と「賃貸・仲介事業」として売上高の内訳を開示してきたが、今後は「不動産開発事業」と「賃貸管理・不動産流通事業」として、売上高と営業利益の内訳を開示する
 なお、従来「開発事業」に含まれたマンション管理事業は、「賃貸管理・不動産流通事業」に移管する

^{*2} 従来「消去又は全社」に含まれていたコーポレートの研究開発、DX関連の機能の一部を、「マテリアル」へ移管

- 円高影響がある一方、医薬事業等における米国の売上高拡大に伴い、海外売上高は前年同期並み
- 米国における「ヘルスケア」や「住宅」のM&A等により、米州の売上高比率が上昇

(億円)



(億円)

	減価償却費 ^{*1}					のれん償却費		
	2024年度上期 ＜組替後＞	うち、買収に係る 無形固定資産の 償却費 ^{*2}	2025年度上期	うち、買収に係る 無形固定資産の 償却費 ^{*2}	2025年度 予想	2024年度上期 ＜組替後＞	2025年度上期	2025年度 予想
ヘルスケアセグメント	244	139	293	182	540	121	127	250
医薬・ライフサイエンス	127	76	163	119		27	38	
クリティカルケア	117	64	130	62		95	89	
住宅セグメント	98	23	100	23	210	8	11	20
住宅	87	23	89	23		8	11	
建材	11	-	12	-		-	-	
マテリアルセグメント	323	20	329	19	710	27	26	50
エレクトロニクス	36	-	34	-		-	-	
カーインテリア	56	20	55	19		26	25	
エナジー＆インフラ	81	1	79	-		1	1	
コンフォートライフ	53	-	56	-		-	-	
パフォーマンスケミカル	35	-	41	-		1	0	
エッセンシャルケミカル	30	-	33	-		-	-	
マテリアル共通	32	-	31	-		-	-	
その他	6	-	5	-	10	-	-	-
消去又は全社	57	-	64	-	130	-	-	-
合 計	729	183	792	224	1,600	157	163	320

*1 有形固定資産、無形固定資産（除く、のれん）の償却額を合算した金額で開示している

*2 買収時のPPAにおいて無形固定資産に配分された金額に係る償却額を開示している

設備投資額、研究開発費

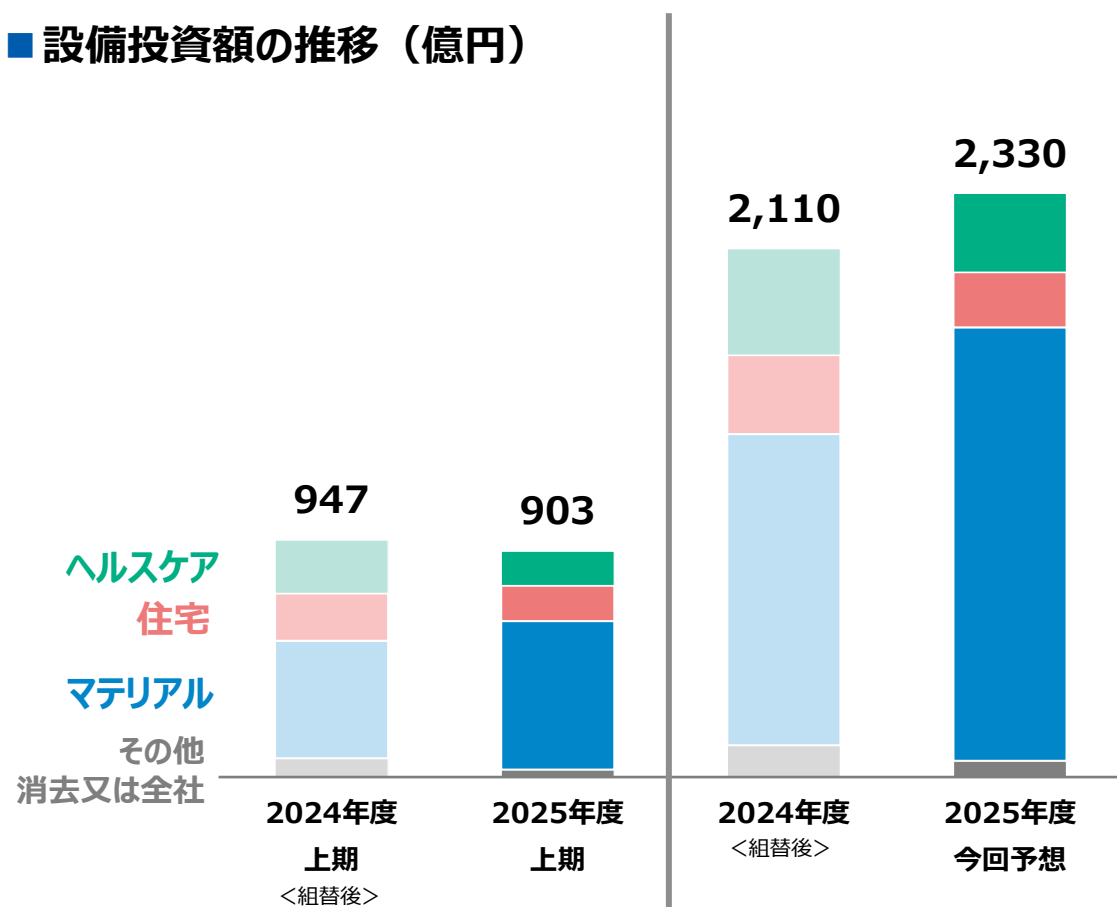
設備投資額

前期比では、2024年度に能力増強等を実施した「ヘルスケア」「住宅」において設備投資額が減少する一方、セパレータ事業において能力増強を実施している「マテリアル」において設備投資額が増加する見込み

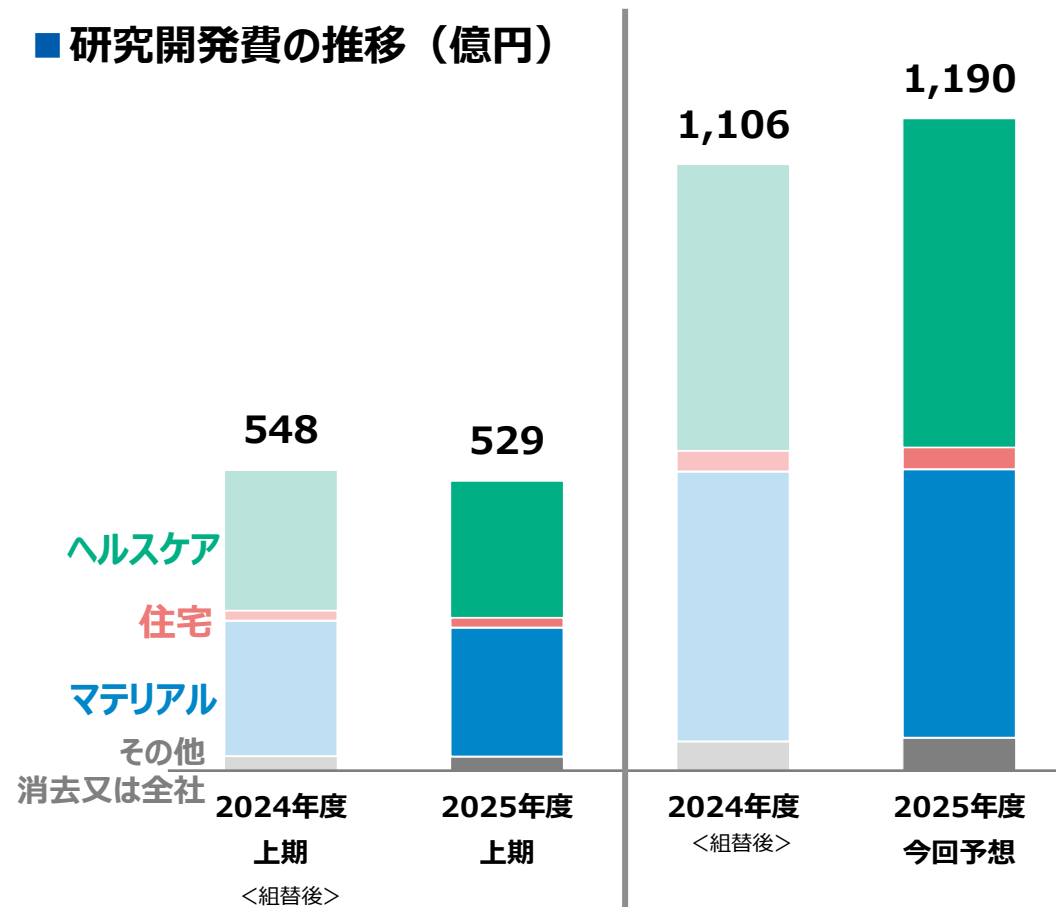
研究開発費

下期において医薬事業のライセンスイン等の発生を見込む「ヘルスケア」を中心に、前期比で研究開発費は増加する見込み

■ 設備投資額の推移（億円）



■ 研究開発費の推移（億円）



主な設備投資案件

(2024年度～)

セグメント	サブセグメント	設備投資件名	能力	立地	完工時期							
					FY24上	FY24下	FY25上	FY25下	FY26上	FY26下	FY27上	FY27下
ヘルスケア	医薬・ライフサイエンス	ウイルス除去フィルター「プラノバ」の新組立工場建設	—	宮崎県延岡市	24年5月完工							
		ウイルス除去フィルター「プラノバ」の新紡糸工場建設	—	宮崎県延岡市	29年度下期完工予定							
		バイオ医薬品CDMOのBionovaの能力増強	—	米国カリフォルニア州	27年度以降完工予定							
		バイオ医薬品CDMOのBionovaのプラスミド製造における新規施設建設	—	米国テキサス州	プロセス開発 25年度上期完工 GMP製造*2 25年度下期以降完工予定							
マテリアル	エレクトロニクス	感光性絶縁材料「パイメル」の生産能力増強	—	静岡県富士市	24年度下期完工							
		感光性絶縁材料「パイメル」の生産能力増強	—	静岡県富士市	27年度完工予定							
	エネルギー&インフラ	リチウムイオン電池用セパレータ「ハイポア」の生産能力増強	約3.5億㎡/年	宮崎県日向市	24年度下期完工							
		リチウムイオン電池用セパレータ「ハイポア」の塗工能力増強	約6億㎡/年	米国ノースカロライナ州、宮崎県日向市	26年度上期完工予定							
		リチウムイオン電池用セパレータ「ハイポア」の製膜・塗工一貫ライン建設	約7億㎡/年*1	カナダオンタリオ州	27年度完工予定							
		アルカリ水電解および食塩電解向け電解用枠・電解用膜の新工場建設	2GW/年	神奈川県川崎市	28年度完工予定							
	マテリアル共通	水力発電所改修（水ヶ崎発電所）	—	宮崎県西臼杵郡	25年度上期完工							

*1 塗工膜換算 *2 医薬品製造業者が遵守すべき製造管理および品質管理の基準（GMP）に準拠して医薬品の製造をすること

主なM&A案件

(2024年度～)

セグメント	サブセグメント	企業名	事業内容	買収金額	のれん発生額	業績貢献（PL連結開始）			
						FY24上	FY24下	FY25上	FY25下
ヘルスケア	医薬・ライフサイエンス	Calliditas Therapeutics AB	医薬・医療関連製品の開発、製造販売等	1,678億円	456億円		24年10月		
住宅	住宅	ODC Construction, LLC	北米における住宅の建築工事	350億円	170億円	24年9月			

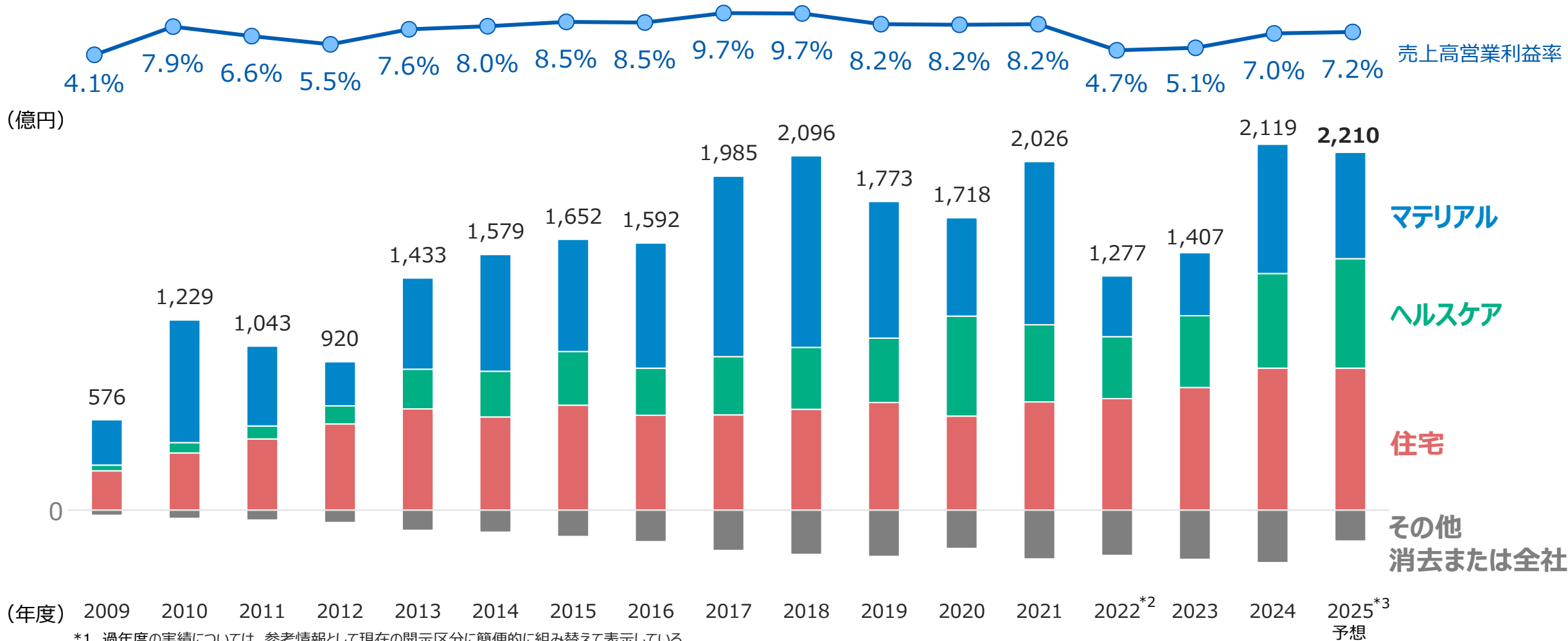
主な構造転換の進捗状況

(2024年度～)

セグメント	サブセグメント	案件	実行時期							
			FY24上	FY24下	FY25上	FY25下	FY26上	FY26下	FY27上	FY27下
ヘルスケア	医薬・ ライフサイエンス	セパセル（白血球除去フィルター）事業の事業撤収	26年3月生産・販売終了予定							
		血液浄化事業の事業譲渡	25年4月譲渡							
		診断薬事業等の譲渡	25年7月譲渡							
住宅	建材	岩国工場（ALCパネル生産拠点）の閉鎖	25年3月末閉鎖							
マテリアル	エッセンシャル ケミカル	PTT Asahi Chemicalにおけるアクリロニトリル事業等の撤退	24年12月販売終了 工場設備の撤去工事							
		MMA、CHMA、アクリル樹脂、SBラテックスの事業撤退	MMA：26年9月生産・販売終了予定							
			CHMA：26年3月生産・販売終了予定							
			アクリル樹脂：26年9月生産終了・27年9月販売終了予定							
			SBラテックス：27年9月生産終了・27年12月販売終了予定							

営業利益の推移*1

- 「住宅」の安定的な利益成長や、「ヘルスケア」の利益拡大により、利益構造はレジリエント化が進んでいる
- 「マテリアル」が経営環境の悪化を受けて2018年度の営業利益をピークに減少していたが、2022年度を底に改善。全社で2024年度に過去最高益を更新し、2025年度もさらなる増益を目指す



*1 過年度の実績については、参考情報として現在の開示区分に簡便的に組み替えて表示している

*2 2022年10月31日付で買収を完了した米国Focus社の取得原価の配分が2023年度第1四半期に完了したことに伴い、2022年度の業績を遡って修正している

*3 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している。詳細は38ページ参照

- セグメント別の営業利益は各セグメント内の事業間取引の消去を含んでいるため、サブセグメント別の営業利益を単純合算した数字とは一致しない

<お知らせ>

2025年度第3四半期決算 決算発表予定日

2026年2月4日（水）

「旭化成レポート2025」発行

https://www.asahi-kasei.com/jp/ir/library/asahikasei_report/



業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。



AsahiKASEI

Creating for Tomorrow